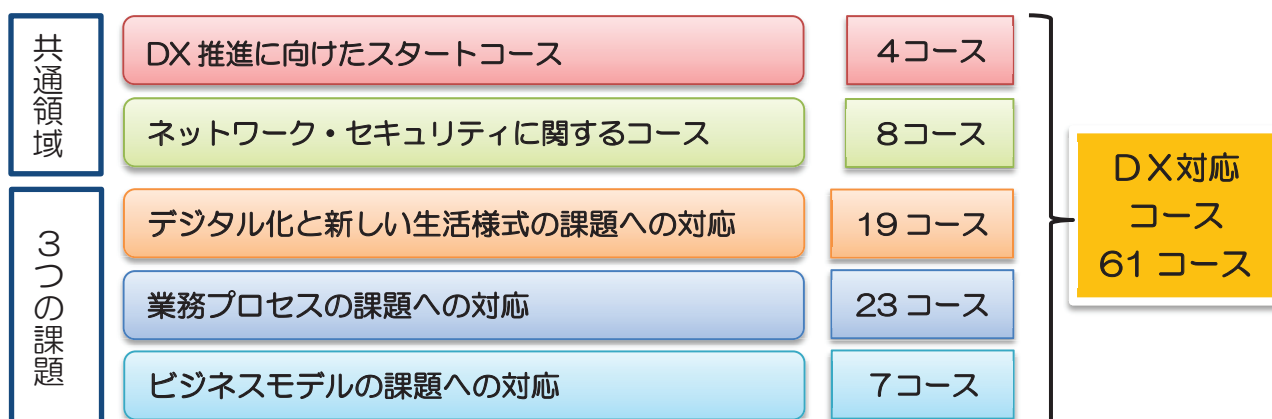


DX対応コースのご案内

生産性向上支援訓練のカリキュラムモデルのうち、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に資する人材育成を支援する訓練コース（61 コース）を「DX対応コース」として設定しています。

DX対応コースでは、訓練目的とは別に「デジタル化と新しい生活様式の課題」「業務プロセスの課題」「ビジネスモデルの課題」という3つの切り口からコースを整理し、さらに「ネットワーク・セキュリティに関するコース」、「DX 推進に向けたスタートコース」を共通領域として設定しています。

なお、DX対応コースに該当する訓練コースには **DX** を付しています。



以下の訓練コースは、課題別のDX対応コースの一例です。

- DXの推進に必要な知識や事例を知りたい

DX 推進に向けたスタートコース

■ DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

（A生産・業務プロセスの改善/バックオフィス/新技術活用）

自社の業務変革を目指して、業務のシステム化に向け、自社のニーズに合致したシステムを企画できる知識を習得します。

- 自社業務に適切なIT ツールを選定したい

デジタル化と新しい生活様式の課題

■ IT ツールを活用した業務改善（A生産・業務プロセスの改善/バックオフィス/システム導入）

業務の省力化や効率化を目指して、IT ツールを活用することで業務改善を実現するために、IT ツールの特徴と種類を理解し、自社業務に適切なIT ツールを選定するための知識を習得します。

- 生産活動にスピードと柔軟性をもたせたい

業務プロセスの課題

■ クラウド活用入門（A生産・業務プロセスの改善/バックオフィス/新技術活用）

クラウドに関する基本的な知識、サービス及び利用法を理解し、クラウドを活用した業務展開、企画提案の知識と技能を習得します。

1 カリキュラムの概要

職業能力開発総合大学校基盤整備センターが開発したカリキュラムモデルを基に、事業主等が抱える生産性向上に係る課題・目標などの人材育成ニーズに応じて、オーダーメイドでカスタマイズして訓練コースを設定します。

カリキュラムは、次に掲げる内容により構成しています。

- イ 基本要素 → 基本項目と演習を組み合わせたもの
 - ① 基本項目 → 事業主等が抱える人材育成上の課題・目標を解決・達成するために必要な基本知識
 - ② 演習 → 基本項目で得られる知識を効果的に習得するための演習
- ロ 応用・実践要素 → 基本要素を補完する応用的・実践的な知識の付与

2 カリキュラム策定の流れ

- (1) カリキュラムモデルの中から、人材育成上の課題解決や目標達成に合致するカリキュラムを選択します。
- (2) 選択したカリキュラムの基本要素について、全ての「基本項目」と「演習」を組み合わせ、**「D I T業務改善」**については4時間以上、それ以外については6時間以上の訓練時間を設定します。
 なお、基本項目に対応する「主な内容」と「演習」は、コースのねらいに沿った内容であれば（例）以外にも設定可能です。
- (3) 訓練時間が7時間以上であり、基本要素に関連する応用的・実践的な知識の習得を希望する場合は、総訓練時間の概ね3割程度を目安に「応用・実践要素」の設定が可能です。

3 カリキュラムの構成

6時間以下コースの構成

基本要素

(基本項目)

事業主等が抱える人材育成上の課題・目標などの人材育成ニーズを解決・達成するために必要な基本知識

(演習) 基本項目で得られる知識を効果的に習得するための演習

4～6h

7時間以上コースの構成

基本要素

(基本項目)

事業主等が抱える人材育成上の課題・目標などの人材育成ニーズを解決・達成するために必要な基本知識

(演習) 基本項目で得られる知識を効果的に習得するための演習

応用・実践要素

(学科)

基本要素に関する応用的・実践的な内容を学ぶために設定

(演習)

7～30h

事業主等が希望する場合、総訓練時間の概ね3割程度を目安に、応用・実践要素の時間を設定することが可能

製造分野におけるDX推進

人材育成上の課題・目標

- ・製造現場で利用されているデジタル技術を知りたい
- ・製造で収集されるデータの活用方法について知りたい
- ・製造分野DXでどのような目指す姿があるか知りたい
- ・自社のDX進捗状況を知りたい
- ・自社に合ったデジタル化を図りたい
- ・製造現場でのDX推進の手順を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・製造現場での活用するデジタル技術（ICT、IoT）を理解する
- ・今後の課題解決のため、現状のDX進捗状況の測定方法を理解する
- ・各種装置から得たデータの活用方法と改善に向けた対応を理解する
- ・スマートファクトリ等の製造現場に向けたDXを理解する
- ・DX推進に向けた社内連携・体制の構築方法を理解する

コースのねらい

生産現場で用いられる各種製造装置や製造工程の監視・制御にICTやIoTなどのデジタル化を組み込むことにより、製品やサービス、ビジネスモデルの改革（DX）を推進して、生産性向上、ビジネス競争力を獲得する方法を理解する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 製造業におけるDXの理解	・スマートファクトリ ・スマートプロダクト ・スマートサービス ・自社現状のDX進捗状況
	■ DX実現事例	・スマートファクトリ実現事例 ・デジタル技術（ICT、IoT）の製造現場での活用と効果 ・データ収集・連携・活用方法
	■ DX推進の目標設定と解決策	・現状調査と課題の抽出 ・DX適用範囲の決定と目標設定 ・解決策の検討 ・DX化の設計
	■ DX推進の計画と実行	・生産活動の見える化と取得したデータを活用した改善 ・社内部門の連携 ・社外資源の活用と連携 ・人材の育成・確保
	■ 演習（例）	・自社現状のDX進捗状況の把握 ・自社の具体的な取組領域（対象や目的、効果、扱うデータ、使用するデジタル技術） ・DX化の設計 ・DX推進に必要な課題の整理
応用・実践要素（例）		・スマートプロダクトの実現方法 ・スマートサービスの実現方法

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A 生産管理
- ・生産現場の問題解決
 - ・生産計画と工程管理
 - ・生産性向上のための課題とラインバランシング
- A バックオフィス
- ・DXの推進
 - ・DXの導入
 - ・IT新技術による業務改善
 - ・データサイエンス入門
 - ・データ活用で進める業務連携
 - ・クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 - ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・ITツールを活用した業務改善
- B 組織マネジメント
- ・成果を上げる業務改善
 - ・DX人材育成の進め方

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

007

在庫管理システムの導入

人材育成上の課題・目標

- ・在庫削減の進め方がわからない
- ・在庫削減や在庫の適正化の方法を知りたい
- ・在庫管理システムを導入したい
- ・在庫管理システムを導入したと思うように運用できていない



課題解決・目標達成を目指して

- ・在庫量・発注量・需要量を算出する
- ・自社在庫の問題点を洗い出す
- ・在庫管理システムの構築例を知る
- ・システム導入による在庫管理の運用事例を知る

コースのねらい

在庫管理システムを活用した在庫削減をめざして、在庫管理業務の意義と役割を理解し、在庫管理システムを正常に機能させるために在庫管理制度を維持する方法や他の管理システムの計画情報との連動について習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 在庫管理について	・在庫管理の対象と在庫管理業務の機能 ・在庫品の評価方法
	■ 在庫管理システム	・在庫管理システムによる在庫管理概要 ・システムを機能させるための在庫管理制度の維持 ・他の管理システムとの計画情報の連動について
	演習（例）	・課題を通じた在庫量・発注量・需要量の算出 ・システムの構築から運用までのトラブルシューティング ・自社在庫の問題点の洗い出し/システムの導入検討
応用・実践要素（例）		・作業効率を考えた在庫の置き方 ・I Cタグやビッグデータの活用による在庫管理の最新動向 ・システム導入による在庫管理の実施事例

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

- ※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
- ・購買・仕入れのコスト削減
- A 流通・物流
- ・流通システム設計
 - ・物流システム設計

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

POSシステムの活用技術

人材育成上の課題・目標

- ・POSシステム導入のメリット・デメリットを知りたい
- ・POSシステムを活用して顧客の囲い込みを実現したい
- ・POSシステムのデータを活用して売上げをあげたい
- ・POSシステムを効率的に活用したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・POSシステム導入によるハード・ソフト双方のメリットを洗い出す
- ・顧客データを活用する
- ・外部POS・外部EOSデータを活用する
- ・クラウド型POSを活用する

コースのねらい

POS (Point of sale) システムのメリットを理解し、販売管理、販売戦略に活用できる知識・技能を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ POSシステムの概要	・小売業における情報化戦略 ・POSシステムの概要
	■ POSシステムの導入事例	・POS導入 ・POSデータ処理 ・POSデータを活用した販売管理
	演習（例）	・POSデータ処理演習 ・POSシステム導入によるハード・ソフトメリットの洗い出し
応用・実践要素（例）		・POSシステム活用の局面（外部POS、外部EOSデータの活用等） ・クラウド型POSの活用技術 ・事例紹介（スーパー、VC、チームマーチャンダイジング等）

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

A 生産管理
・原価管理とコストダウン
・在庫管理システムの導入

A 流通・物流
・物流のIT化

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

3 P L と S C M

人材育成上の課題・目標

- ・物流全体の最適化・効率化を実現したい
- ・物流コストを削減したい
- ・3 P L と S C M の最新動向を知りたい
- ・3 P L 物流のプロデュースについて最新情報を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・物流のアウトソーシングを理解する
- ・コンセプト作りからデータ分析、コスト・シミュレーションする
- ・I T を使ったロジスティクスの最新動向を知る
- ・4 P L 組織が提供するサービス事例を知る

コースのねらい

物流のアウトソーシングの実態を理解し、3 P L (third - party logistics) と S C M (Supply Chain Management) との関連についての知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 物流のアウトソーシング	・物流の内容 ・物流のアウトソーシング
	■ S C M (Supply Chain Management) との関連	・サプライチェーン・マネジメント ・3 P L と S C M との関連
	演習（例）	・3 P L 営業に必要なデータ分析手法 ・ケーススタディ（コンセプト作りからデータ分析、コスト・シミュレーション） ・3 P L 提案書の作成
	応用・実践要素（例）	・輸送コスト分析、物流センターの生産性向上 ・I T を使ったロジスティクスの最新動向 ・4 P L 組織が提供するサービス事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

初任層

関連コース

- A 流通・物流
 - ・物流の I T 化
 - ・流通システム設計
 - ・物流システム設計
 - ・S C M の現状と将来展望
- B 組織マネジメント
 - ・物流現場のリーダー育成
- C プロモーション
 - ・プロモーションとチャネル戦略

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

物流の I T 化

人材育成上の課題・目標

- ・物流全体の最適化・効率化を実現したい
- ・物流コストを削減したい
- ・物流システムの最新動向を知りたい
- ・最新 I o T を活用した物流の I T 化の情報を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・流通・物流ネットワークの構築と情報技術を理解する
- ・需要予測及び輸送・配送計画方法を理解する
- ・物流 I T 導入に伴う問題検証方法を理解する
- ・流通・物流業界における I T 化事例を知る

コースのねらい

宅配と通販の関係及び物流の I T 化の進展、関連する情報技術を知り、流通物流ネットワークの構築について提案することができる知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 流通・物流ネットワークの構築と情報技術	・流通ネットワーク ・物流ネットワーク
	■ 物流の I T 化の進展	・物流の I T 化 ・物流革新
	演習（例）	・事例を用いた需要予測及び輸送・配送計画演習 ・物流 I T 導入に伴う問題検証グループ演習 ・自社におけるデータマイニングによる需要予測及び輸送・配送計画
応用・実践要素（例）		・関連情報技術と科学的管理法 ・流通・物流における情報端末の活用 ・流通・物流業界における I T 化事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

初任層

関連コース

- A 流通・物流
- ・3PLとSCM
 - ・流通システム設計
 - ・物流システム設計
 - ・SCMの現状と将来展望
- A 生産管理
- ・POSシステムの活用技術
- B 組織マネジメント
- ・物流現場のリーダー育成

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

流通システム設計

人材育成上の課題・目標

- ・ 自社流通コストの分析結果からコスト削減を図りたい
- ・ 流通システム導入を考えているがその手順を知りたい
- ・ 流通システムの最新動向を知りたい
- ・ 売上最大化戦略を目指したシステム開発の動向を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・ 流通システム分析方法を理解する
- ・ システム分析とシステム設計手順を理解する
- ・ クラウド環境に対応したSCMソフトウェアを知る
- ・ 流通システム開発導入事例を知る

コースのねらい

流通システムとその進め方及び新たな流通システムの事例を知り、流通システム設計を進めるための知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 物流コスト管理と生産性向上	・ 自社物流コストの算定 ・ 物流ABC準拠による物流コストの算定
	■ システム分析とシステム設計手順	・ システム分析とその進め方 ・ システム分析とシステム設計との関係
	■ SCM (Supply Chain Management) のシステム	・ SCMシステム概要 ・ SCM取組み事例
	演習（例）	・ 活動基準原価計算演習 ・ 流通システム分析グループ演習 ・ 自社流通システムの分析
応用・実践要素（例）		・ TOC (Theory of Constraints) 制約条件の理論 ・ クラウド環境に対応したSCMソフトウェアの紹介 ・ 流通システム開発導入事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
 - ・ 在庫管理システムの導入
 - ・ 購買・仕入れのコスト削減
- A 流通・物流
 - ・ 3PLとSCM
 - ・ 物流のIT化
 - ・ 物流システム設計
 - ・ SCMの現状と将来展望
- A バックオフィス
 - ・ 企業価値を上げるための財務管理
- C プロモーション
 - ・ プロモーションとチャネル戦略

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

物流システム設計

人材育成上の課題・目標

- ・ 自社物流コストの分析結果からコスト削減を図りたい
- ・ 物流システム導入を考えているがその手順を知りたい
- ・ 物流システムの最新動向を知りたい
- ・ 売上最大化戦略を目指したシステム開発の動向を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・ 物流コスト管理方法を理解する
- ・ 物流システム設計の手法を理解する
- ・ I C タグを活用した物流システムの管理の実際を知る
- ・ 物流システムを用いた効率的な物流業務（倉庫・在庫管理）を知る

コースのねらい

物流の生産性向上とコスト管理を理解し、物流システムの設計に関する知識・技能を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 物流の生産性向上とコスト管理	・ 物流コストと標準化 ・ 物流の生産性向上
	■ 物流システム設計	・ 物流システム設計の概要 ・ 物流システム設計の手法
	演習（例）	・ 課題を用いた物流システム設計演習 ・ 生産性向上に向けた物流の改善グループ演習 ・ 自社における配送計画の作成
応用・実践要素（例）		・ 物流センターの設備設計 ・ I C タグを活用した物流システムの管理の実際 ・ 物流システムを用いた物流業務の効率化（倉庫管理、在庫管理）

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
 - ・ 在庫管理システムの導入
 - ・ 購買・仕入れのコスト削減
- A 流通・物流
 - ・ 3PLとSCM
 - ・ 物流のIT化
 - ・ 物流システム設計
 - ・ SCMの現状と将来展望
- A バックオフィス
 - ・ 企業価値を上げるための財務管理

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

012

卸売業・サービス業の販売戦略

人材育成上の課題・目標

- ・市場・顧客の拡大から売上高と粗利益率の最大化を図りたい
- ・新たな流通、商品開発において付加価値の追求に取り組むたい
- ・価格以外の競争優位性を高めたい
- ・コスト削減、仕入れ価格、オペレーションコストの抑制に取り組むたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・効果的な販売戦略案を作成する
- ・ニューサービスの経営特性を理解する
- ・自社におけるビジネス活動の問題解決方法を理解する
- ・販売活動の改善方法を理解する

コースのねらい

サービス業の経営上の特質を知り、卸売業・サービス業の販売戦略を構築できる知識及び技能を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 卸売業の活性化と流通機構	・経営戦略の転換による活性化 ・流通機構システムと卸売業 ・流通機構の近代化への役割分担 ・充足戦略 ・販売促進機能
	■ 組織化活動	・機能と活動体系 ・組織化活動と連携意識 ・VC（ボランタリーチェーン）組織の一般的な機構内容
	■ サービス業の経営上の特徴	・一般サービス業のビジネス活動 ・ニューサービスの経営特性 ・マーケット開拓のポイント ・サービス活動の付加価値
	演習（例）	・販売戦略案の作成 ・販売活動改善グループ演習 ・自社におけるビジネス活動の問題解決
応用・実践要素（例）		・取引先支援活動（ディーラーヘルプ等） ・ITネットワークを使った情報化対応事例 ・ニューサービス業成功事例

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
 - ・サービス業におけるIE活用
 - ・原価管理とコストダウン
 - ・購買・仕入れのコスト削減
- C 営業・販売
 - ・マーケティング志向の営業活動の分析と改善
- C マーケティング
 - ・実務に基づくマーケティング入門
- C 企画・価格
 - ・製品・市場戦略

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

SCMの現状と将来展望

人材育成上の課題・目標

- ・販売、受注実績データから、発注、生産、販売までの最適化を図りたい
- ・在庫の削減などによるコスト削減、経営の効率化を目指したい
- ・コスト削減、仕入れ価格、オペレーションコストの抑制に取り組みたい
- ・自社商品のグローバル化を図りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・SCMの仕組みを理解する
- ・SCM構築に当たっての問題検証をする
- ・自社の将来を見据えたSCM構築案を作成する
- ・グローバルサプライマネジメントへの転換を検討する

コースのねらい

サプライチェーン・マネジメントの概要及び現状と将来展望を知り、サプライチェーン・マネジメント経営手法についての知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ SCM (Supply Chain Management)	・サプライチェーン・マネジメントの概要 ・基本コンセプト ・経営環境の変化とSCM
	■ 現状と将来展望	・メーカーにおける現状と将来展望 ・小売業における現状と将来展望
	演習（例）	・事例や課題を通じたSCM業務連鎖シミュレーション演習 ・SCM構築に当たっての問題検証 ・自社の将来を見据えたSCM構築案の作成
	応用・実践要素（例）	・グローバルサプライマネジメント ・ITとサプライチェーン・マネジメント ・SCM構築事例

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

管理者層

関連コース

- A 生産管理
 ・購買・仕入れのコスト削減
 A 流通・物流
 ・3PLとSCM
 ・流通システム設計
 ・物流のIT化
 ・物流システム設計
 B 組織マネジメント
 ・物流現場のリーダー育成
 C プロモーション
 ・プロモーションとチャネル戦略

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
 なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

クラウド活用入門

人材育成上の課題・目標

- ・クラウドサービスについて興味がある
- ・クラウド活用のメリットと導入事例を知りたい
- ・生産活動にスピードと柔軟性をもたせたい
- ・社内サーバでの情報管理に限界を感じている
- ・ITの運用管理コストの削減策を検討したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・クラウドの概要と活用のメリット・デメリットを整理する
- ・ストレージとデータベース機能を理解する
- ・IT運用管理コストの低減方法を理解する
- ・クラウドの活用事例を知る

コースのねらい

クラウドに関する基本的な知識、サービス及び利用方法を理解し、クラウドを活用した業務展開の企画提案の知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ クラウド	・クラウドコンピューティング ・クラウドの定義と特徴 ・クラウド活用のメリット ・クラウドの利用モデル
	■ クラウドサービス	・クラウドサービスの概要 ・ストレージサービス ・ネットワークサービス ・データベースサービス
	■ クラウドの利用	・クラウドサービスの利用方法 ・ビッグデータの活用
	演習（例）	・課題を通じたクラウドを利用演習 ・クラウド活用の企画・提案サービス演習 ・ビッグデータ利用のためのクラウド活用
	応用・実践要素（例）	・クラウドを活用したシステム構築 ・ビッグデータの仕組みと活用事例

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A バックオフィス
 - ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・クラウドを活用したシステム導入
 - ・IoT導入に係る情報セキュリティ
- B 組織マネジメント
 - ・IoTを活用したビジネスモデル
 - ・個人情報保護と情報管理
- C マーケティング
 - ・マーケティング戦略概論
 - ・インターネットマーケティングの活用
- C プロモーション
 - ・チャンスをつかむインターネットビジネス

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

I o T活用によるビジネス展開

人材育成上の課題・目標

- ・ I o Tとビッグデータの関係がよくわからない
- ・ ネットを活用した情報収集や遠隔操作を行いたい
- ・ コスト削減と併せて質の高い製品・サービスを提供したい
- ・ 自社事業に I o Tを導入できるかどうかわからない



課題解決・目標達成を目指して

- ・ I o T技術と関連法及びその問題点を知る
- ・ I o T利活用と導入事例を知る
- ・ インターネット回線利用のリスクを理解する
- ・ I o Tの導入手順を理解する
- ・ 自社事業への導入を想定したビジネス展開（スマートファクトリーなど）を検討する

コースのねらい

I o Tに関する基本的な知識、技能・技術を理解し、I o Tを活用したビジネス展開手法を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ I o T (Internet of Things) とビッグデータ	・ I o Tの概要 ・ ビッグデータの歴史と特徴 ・ ビッグデータの影響力 ・ データの収集方法
	■ I o Tを活用したビジネス展開	・ 制約条件 ・ スマートファクトリー ・ クラウド（インターネット回線）利用時のリスク
	演習（例）	・ 課題を通じた I o T活用によるビジネス展開演習 ・ I o T活用による問題検証 ・ 自社におけるビジネス展開案の作成
	応用・実践要素（例）	・ クラウド活用によるビッグデータ分析 ・ 先進企業等の事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A バックオフィス
- ・ クラウド活用入門
 - ・ クラウドを活用したシステム導入
 - ・ I o T導入に係る情報セキュリティ
 - ・ テレワークを活用した業務効率化
- B 組織マネジメント
- ・ I o Tを活用したビジネスモデル
- C プロモーション
- ・ チャンスをつかむインターネットビジネス

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

クラウドを活用したシステム導入

人材育成上の課題・目標

- ・クラウドサービスの導入方法がわからない
- ・クラウドサービスの導入におけるコストの試算方法を知りたい
- ・クラウドをファイルサーバ以外にも活用していきたい
- ・自社に合ったクラウドサービスを知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・クラウドの技術的事項を知る
- ・クラウドサービスの提供事業者とそれぞれの特徴を知る
- ・クラウドシステムの種類と導入・ランニングコストを知る
- ・クラウド導入時、運用時の問題点を検証する

コースのねらい

クラウドに関する知識、技能・技術を理解し、クラウドを活用したシステム導入に係る知識を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ クラウド技術	・クラウドサービスの概要 ・クラウドを実現する技術とは ・分散処理 ・データベース
	■ クラウドサービスとシステム導入	・サービス提供事業者 ・システム導入
	演習（例）	・システム導入に係るコスト試算演習 ・クラウドシステム導入上の問題検証 ・プライベートクラウドの構築（提案）
	応用・実践要素（例）	・IoTにおけるクラウド活用 ・先進企業等のクラウド導入事例 ・クラウド化による生産性向上にかかる取組事例

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A バックオフィス
- ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・クラウド活用入門
 - ・IoT導入に係る情報セキュリティ
- B 組織マネジメント
- ・IoTを活用したビジネスモデル
- C マーケティング
- ・マーケティング戦略概論
- C プロモーション
- ・チャンスをつかむインターネットビジネス

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

IoT導入に係る情報セキュリティ

人材育成上の課題・目標

- ・IoT導入のメリット・デメリットがわからない
- ・情報セキュリティに関する自社員の知識が乏しい
- ・情報漏えいの心配がある
- ・サイバー攻撃対策がわからない



課題解決・目標達成を目指して

- ・IoT導入の有用性と各社の導入事例を知る
- ・情報セキュリティに関するリスク等を理解する
- ・現場におけるセキュリティリスクをチェックする
- ・各リスクへの対策方法を理解する

コースのねらい

情報セキュリティ対策の適正化を目指して、IoT導入の有用性及び情報セキュリティに関するリスク及びセキュリティチェック等の必要な対策についての知識及び技術を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ IoT (Internet of Things) 導入	・導入の背景と利便性及び危険性 ・ネットワークの利用方法
	■ 情報セキュリティ	・ファイアーウォールによる防衛 ・パスワード解読によるアカウント乗っ取りと防衛 ・ウィルスによる攻撃とアンチウィルスソフトの導入 ・セキュリティリスクの洗い出し方法
	演習（例）	・クラウド活用時のセキュリティ対策演習 ・セキュリティリスクの洗い出し ・セキュリティチェック演習（パケットモニタを利用した各種ログの活用）
応用・実践要素（例）		・セーフティ設計とセキュリティ設計 ・各業界におけるIoT動向事例

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A バックオフィス
- ・クラウド活用入門
 - ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・クラウドを活用したシステム導入
 - ・テレワークを活用した業務効率化
- B 組織マネジメント
- ・IoTを活用したビジネスモデル
- C プロモーション
- ・チャンスをつかむインターネットビジネス

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

クラウドを活用した情報共有能力の拡充

人材育成上の課題・目標

- ・自社に合ったクラウドサービスを知りたい
- ・クラウドを導入したが社内の情報共有がスムーズにできない
- ・クラウドで共有した情報の活用方法が分からない
- ・クラウドを使った他社の成功例を知りたい
- ・クラウドをファイルサーバ以外にも活用していきたい
- ・クラウドサービスの導入コストを知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・クラウドサービス上の情報共有化に活用できるツールを知る
- ・クラウドを活用するための業務の選定の方法を理解する
- ・共有した情報の見える化の重要性を理解する
- ・クラウドを用いた情報共有の成功例を理解する

コースのねらい

部門や拠点間の情報共有・調整コストの軽減をめざして、クラウドの技術概要や活用事例、活用検討にあたってのポイントを理解し、クラウドを活用した自社業務における情報共有の課題解決に繋げるための能力を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 情報共有方法とクラウドの活用	・業務における情報共有の必要性 ・情報共有方法の現状 ・情報共有ツールの活用 ・クラウドを活用した情報共有方法
	■ クラウドを活用した情報共有能力の拡充	・情報共有プロセスの分析 ・業務の見える化と課題の洗い出し ・クラウド活用の長所と留意点 ・導入に係る課題解決策立案
	演習（例）	・情報共有のためのクラウド活用の課題と解決法の検討 ・クラウドを利用した情報共有演習 ・クラウドを利用した部署別の情報共有化演習
応用・実践要素（例）		・クラウドと外部システムとの連携 ・プラットフォームサービスを活用した業務効率化事例 ・クラウドを活用した社内情報の共有化の成功例

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A バックオフィス
- ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・クラウド活用入門
 - ・クラウドを活用したシステム導入
- B 組織マネジメント
- ・IoTを活用したビジネスモデル

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

導入コストを抑えるクラウド会計・モバイルPOSレジ活用

人材育成上の課題・目標

- ・クラウド会計及びモバイルPOSレジの導入事例を知りたい
- ・クラウド会計及びモバイルPOSレジ導入のメリット・デメリットを知りたい
- ・クラウド会計及びモバイルPOSレジを導入し、業務の効率化を図りたい
- ・クラウド会計及びモバイルPOSレジの導入コストを知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・クラウド会計及びモバイルPOSレジの導入事例を知る
- ・クラウド会計及びモバイルPOSレジの活用方法を理解する
- ・導入に係る比較・検討ができる
- ・POSデータ分析による業務改善の検討ができる

コースのねらい

クラウド会計及びモバイルPOSレジの概要を理解し、業務の効率化や、データ分析による業務改善を図る知識を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ クラウド会計・モバイルPOSレジの概要	・クラウド会計、モバイルPOSレジとは ・クラウド会計、モバイルPOSレジの特徴と業務の効率化
	■ クラウド会計・モバイルPOSレジの活用事例	・業務における活用事例 ・活用によるメリット
	演習（例）	・スマートデバイス・クラウドサービス活用事例 ・クラウド会計・モバイルPOSレジ体験 ・POSデータ分析演習
応用・実践要素（例）		・クラウド会計・モバイルPOSレジ導入の必要性に係る検討及びコスト ・POSデータ分析による業務改善の検討 ・モバイルPOSの種類・仕組・特徴

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

A 生産管理
 ・POSシステムの活用技術
 A バックオフィス
 ・企業価値を上げるための財務管理
 ・クラウド活用入門
 ・クラウドを活用したシステム導入
 ・クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 ・IoT活用によるビジネス展開
 ・IoT導入に係る情報セキュリティ
 ・IT新技術による業務改善
 B 組織マネジメント
 ・IoTを活用したビジネスモデル ほか

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
 なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

083

テレワークを活用した業務効率化

人材育成上の課題・目標

- ・テレワークの導入効果を知りたい
- ・テレワークの導入事例を知りたい
- ・テレワーク推進の社内体制を構築したい
- ・テレワークの導入手順を知りたい
- ・失敗せずにテレワークを導入したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・テレワークによる業務効率化について理解する
- ・経営者及び労働者のテレワーク導入による効果を理解する
- ・テレワークを阻む課題を理解する
- ・テレワーク推進に必要な社内体制を理解する
- ・テレワークの導入手順を理解する
- ・テレワークを導入した効果や段階的推進について理解する

コースのねらい

ICT（情報通信技術）を利用し、時間や場所を有効に活用でき柔軟な働き方ができるテレワークを活用し、業務を効率的に進めるための方法と技術を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ テレワークの効果	・テレワークの形態及び効果 ・テレワーク導入の推進体制 ・テレワーク実施のための全体方針の決定
	■ テレワークの環境構築	・ルールの整備 ・ICT環境整備 ・セキュリティ対策 ・情報共有ツール
	■ 業務効率向上のためのテレワークの評価と改善	・テレワークの評価と改善 ・テレワークの評価によるPDCAサイクルの実践
	演習（例）	・テレワーク実践事例の確認 ・導入目的と目指すテレワーク実施範囲の明確化 ・自社に合ったテレワークを構築するための環境選択
応用・実践要素（例）		・テレワーク勤務の労働基準関係法令の適用 ・テレワークに合った就業規則の作成 ・テレワークに合った人事評価制度

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A バックオフィス
- ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・IoT導入に係る情報セキュリティ
- B 組織マネジメント
- ・成果を上げる業務改善
 - ・組織力強化のための管理

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

テレワーク活用

人材育成上の課題・目標

- ・Web会議用ソフトの効率的な使い方を知りたい
- ・テレワーク下における環境の構築方法を知りたい
- ・テレワーク下の共同作業の方法を知りたい
- ・テレワーク下のメンタルヘルスが心配だ
- ・情報漏えいリスクへの対処方法を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・代表的なWeb会議用ソフト等を理解する
- ・パソコンをきちんと設定できる
- ・テレワーク下でも生産性を落とさず共同作業が行える環境を理解する
- ・テレワーク下であってもメンタルヘルスを維持できる
- ・情報漏えいリスクへの対処方法を理解する

コースのねらい

テレワーク時に必要なコミュニケーション方法、ソフトの活用方法、各種ソフトの使い方やそれらを活用した業務の効率化や生産性向上の方法について習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ テレワークの概要	・テレワークとは ・テレワーク時に必要な心得 ・社内コミュニケーションと社外コミュニケーション
	■ テレワークに必要なソフトの活用方法	・代表的なWeb会議用ソフトの使い方 ・様々なWeb会議用ソフトを支援するクラウドサービスやチャットツールの使い方 ・VPNソフトの設定方法 ・通信環境の見直し
	■ テレワークの留意点	・テレワーク時の業務環境の整備 ・テレワーク時の意識改革 ・テレワーク下のメンタルヘルス ・テレワーク下の情報漏えいリスク
	演習（例）	・Web会議用ソフトの実践演習 ・生産性を向上させる代表的なクラウドサービスやチャットツールの実践演習
応用・実践要素（例）		・テレワーク下におけるチーム作業の進め方 ・Web会議用ソフト以外のコラボレーションツールの活用

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
 なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
 ※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

初任層

関連コース

- A バックオフィス
- ・クラウド活用入門
 - ・クラウドを活用したシステム導入
 - ・クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 - ・IoT導入に係る情報セキュリティ
 - ・テレワークを活用した業務効率化
 - ・IT新技術による業務改善
 - ・データ活用で進める業務連携
 - ・失敗しない社内システム導入
- B 組織マネジメント
- ・成果を上げる業務改善
 - ・IoTを活用したビジネスモデル
 - ・ムダを発見するための業務プロセスの見える化と業務改善
- D 倫理・セキュリティ
- ・脅威情報とセキュリティ対策
 - ・情報漏えいの原因と対応・対策

使用機器等

パソコン、インターネット、Web会議用ソフト

経理業務の効率化につながるDXの実践

人材育成上の課題・目標

- ・経理業務における問題点を把握したい
- ・業務に係る時間やコストの削減方法を知りたい
- ・請求書の発行、保存等の効率化を実現したい
- ・ペーパーレス化や自動化を実現したい
- ・クラウドを活用した業務運営をしたい
- ・経理業務をDXに結び付けたい
- ・経営判断に用いるデータが早く欲しい



課題解決・目標達成を目指して

- ・自社の経理業務の流れを理解し、DX化に向けた改善点を洗い出せるようになる
- ・DX化に向けた手段・方法を理解する
- ・DX化の進め方を理解する
- ・クラウドを活用した会計ソフトを知る
- ・クラウド会計ソフトの導入事例を知る
- ・クラウド処理によるデータ共有を理解する
- ・経理業務を戦略的に遂行する方法を知る

コースのねらい

法改正など経理分野を取り巻く環境の変化や、変化に対応する経理業務のデジタル化に向けた手法を理解し、自社に合ったシステムの導入方法を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目		主な内容（例）
	■	経理業務の現状と課題	・法改正など経理業務を取り巻く環境の変化の理解 ・手作業、データ散材、属人化 ・経営上の問題点 ・経理業務のDX化の必要性
	■	業務を改善する手法と手順	・目的と戦略の明確化 ・現状分析、課題の洗い出し ・ツール・システム等の理解（クラウド、会計ソフト、OCR・RPA等） ・導入するシステム等の決定
	■	ツール・システムの導入（DXの実践）	・業務における導入・活用事例 ・導入手順例 ・人材のスキルアップ ・導入後の評価方法
	演習（例）		・自社における課題の洗い出し ・自社に合ったツールやシステムの選定 ・導入計画書の立案
応用・実践要素（例）			・会計ソフト導入のプロジェクト管理 ・費用対効果の算出と要件定義 ・データの可視化やビッグデータ解析 ・セキュリティ対策 ・人材の育成・確保

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A バックオフィス
 - ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入
 - ・DX人材育成の進め方
 - ・クラウドを活用したシステム導入
 - ・成果を上げる業務改善
 - ・ITツールを活用した業務改善
 - ・データ活用で進める業務連携
- B 組織マネジメント
 - ・IoTを活用したビジネスモデル
 - ・成果を上げる業務改善
- D セキュリティ対策
 - ・脅威情報とセキュリティ対策

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

056

ITツールを活用した業務改善

人材育成上の課題・目標

- ・ITツールを活用してムリ・ムダをなくしたい
- ・ITツールを導入したいが効果がよく分からない
- ・ITツールを導入したがなかなか業務の改善につながらない
- ・自社業務に適切なITツールを選定したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・ITツールの種類と活用方法を理解する
- ・ITツールの業務適用範囲を検討する
- ・ITツール適用後の改善効果を検証する
- ・ITツールの必要機能の選定と導入・運用コストを理解する

コースのねらい

業務の省力化や効率化を目指して、ITツールを活用することで業務改善を実現するために、ITツールの特徴と種類を理解し、自社業務に適切なITツールを選定するための知識を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ ITツールの種類と活用	・ITツールの種類について ・ITツール導入による失敗パターン ・業務改善のためのITツール導入の考え方 ・ITツール活用時におけるリスクと対応
	■ ITツールの業務適用	・ITツールの業務適用範囲の検討 ・ITツール使用者のフォロー ・必要機能の選定と導入・運用コスト ・ITツール適用後の改善効果検証
	演習（例）	・ITツールの導入が可能な業務の選定演習 ・ITツールの活用した定型業務改善演習（グループワーク） ・ITツール導入効果と運用コスト
	応用・実践要素（例）	・業務分析結果に基づくITツールの導入 ・IoTと連携したITツールの活用事例 ・ITツールとサプライチェーン連携事例

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

A バックオフィス
 ・クラウド活用入門
 ・IoT活用によるビジネス展開
 ・クラウドを活用したシステム導入
 ・IoT導入に係る情報セキュリティ

B 組織マネジメント
 ・成果を上げる業務改善
 ・DX人材育成の進め方

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
 なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

データ活用で進める業務連携

人材育成上の課題・目標

- ・社内各部署間や企業間の連携を進めるための手掛かりを知りたい
- ・社内各部署で作成したデータを社内で有効活用できるようにしたい
- ・企業間でもデータを連携できるようにしたい
- ・業務に必要なデータを整理したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・データ活用が業務連携に寄与することを理解する
- ・業務連携するために必要な情報と仕組みを理解する
- ・連携のためのデータの種類と型を理解する
- ・目的に合ったデータの整理について理解する

コースのねらい

所有するデータを経営資源として管理し、活用することで、社内外の業務の連携を強化できることを理解する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目		主な内容（例）
	■ データ活用の基本		・データと情報の違い ・欲しい情報を得るためのデータ選別 ・データ活用のために必要なルール ・データの種類と型、入力のルール
	■ データマネジメント		・データの品質管理 ・データ管理のための統制 ・データの収集と蓄積 ・データの共有と連携
	■ データ活用と業務の連携		・社内データの統合と管理 ・IT新技術を活用（IoT、クラウド、ビッグデータ）したデータ活用 ・データ活用による業務連携事例
	演習（例）		・自社が所有するデータの把握 ・自社で連携可能なデータと業務連携の検討
応用・実践要素（例）		・企業間のデータ交換の形式と型（XML等） ・サプライチェーンマネジメントにおけるデータ連携事例	

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A バックオフィス
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
 - ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入
 - ・ITツールを活用した業務改善
 - ・失敗しないシステム導入
 - ・企業内でIT活用を推進するために必要な技術理解
 - ・企業内でIT活用を推進するために必要なマネジメント
- B 組織マネジメント
- ・成果を上げる業務改善
 - ・ムダを発見するための業務プロセスの見える化と業務改善
 - ・DX人材育成の進め方 ほか

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

090

失敗しない社内システム導入

人材育成上の課題・目標

- ・業務をシステム化するために必要な考え方や進め方を知りたい
- ・システム化にあたり、企業経営の課題の抽出から解決までを同時に進めたい
- ・ユーザとITベンダの役割を知りたい
- ・システムを導入するための計画を立案したい
- ・システム化に伴うコストの考え方を知りたい
- ・システム化の全体像を理解し、ITベンダに対する確かな要望を出せるようになりたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・システム化推進担当者の役割を理解する
- ・システム化に必要な業務の流れを理解する
- ・経営課題を整理し、システム化に向けた検討ができる
- ・課題解決案から導入計画を作成できる
- ・ユーザの役割を理解し、システム開発を進めることができる
- ・ITベンダに対して、コストに基づいた確かなシステム要件を示すことができる
- ・開発するシステムの全体像を把握し、管理できる

コースのねらい

業務をシステム化する上で、必要となるシステム構築の流れやユーザ視点におけるシステム化に必要な知識を理解する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 業務とシステム	・システムの導入目的 ・システムの種類 ・システムの要件
	■ 開発手順とユーザの役割	・システム開発の手順 ・ユーザと開発ベンダの役割 ・要求定義の重要性 ・要件定義の難しさ
	■ システムのコスト	・コストの考え方（開発経費、運用経費、改修経費等） ・開発工数による積算 ・システム種別によるコスト比較
	演習（例）	・経営に係る課題抽出と課題解決（あるべき姿の創出） ・導入計画書の立案 ・システム要件の定義
	応用・実践要素（例）	・システム開発のプロジェクト管理 ・費用対効果の算出とシステム要件の定義

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。

※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A 生産管理
 ・在庫管理システムの導入
 A 流通・物流
 ・流通システム設計
 ・物流システム設計
 A バックオフィス
 ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
 ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入
 ・データ活用で進める業務連携
 ・企業内でIT活用を推進するために必要なマネジメント
 B 組織マネジメント
 ・成果を上げる業務改善
 ・ムダを発見するための業務プロセスの見える化と業務改善ほか

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
 なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

企業内でIT活用を推進するために必要な技術理解

人材育成上の課題・目標

- ・企業活動と最新のIT情報を知りたい
- ・他企業内で活用されている情報機器を知りたい
- ・IoT機器のネットワーク接続に必要な技術を知りたい
- ・ソフトウェアのライセンス形態について知りたい
- ・自社の業務に活かせるIT化技術のメリット・デメリットを知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・ITについての現状や動向を理解する
- ・新しいIoT機器の活用方法を理解する
- ・ソフトウェアライセンス形態について理解する
- ・企業内でのIT化の推進役を務めることができる

コースのねらい

企業を取り巻く現状及び動向を理解し、生産性向上を目指したIT活用に向け、業務に必要となるハードウェアやソフトウェアについて理解する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ ITとビジネス	・企業の主な業務活動 ・企業活動におけるITの有効活用（例）テレワークの基本的な考え方と事例など ・企業内で使用する各種情報システム（例）IoTを活用したシステムの事例など
	■ 業務に必要なハードウェアの選択と適用	・コンピュータで扱うデータ ・コンピュータの構成要素 ・IoTデバイスの役割と構成 ・IoTネットワークの構成要素
	■ 構成するソフトウェアとライセンス	・オペレーティングシステム（OS）とアプリケーション ・オープンソースソフトウェア（OSS） ・ビジネスシステムのソフトウェアパッケージ ・ソフトウェアライセンス
	演習（例）	・業務で活用している・活用したいIoT機器の情報共有 ・活用実績のあるソフトウェアライセンス形態の情報共有 ・IT化に不向きな業務の検討
応用・実践要素（例）		・システム導入の目的や要件の検討 ・システム化に対する費用対効果の検討 ・開発手順とユーザの役割の理解

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A 生産管理
 - ・在庫管理システムの導入
- A 流通・物流
 - ・流通システム設計
 - ・物流システム設計
- A バックオフィス
 - ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・クラウドを活用したシステム導入
 - ・クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 - ・テレワーク活用
 - ・テレワークを活用した業務効率化
 - ・ITツールを活用した業務改善
 - ・データ活用で進める業務連携
 - ・失敗しない社内システム導入
 - ・企業内でIT活用を推進するために必要なマネジメント
- B 組織マネジメント
 - ・成果を上げる業務改善
 - ・ムダを発見するための業務プロセスの見える化と業務改善

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

企業内でIT活用を推進するために必要なマネジメント

人材育成上の課題・目標

- ・企業内のIT化へ投資をする上で必要な要件について知りたい
- ・システム化の目的と要件の取りまとめ方を知りたい
- ・ソフトウェアの開発手法及び手順を知りたい
- ・システム開発及び運用に係る関連法規を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・自社のシステム化の目的と要件を定義できる
- ・自社のシステム化に向け費用や納期の検討ができる
- ・システム開発に必要な管理を理解する
- ・システム開発及びシステム監査・関連法規を理解する
- ・企業内でのIT活用を推進できる

コースのねらい

生産性向上を目指したIT活用に向け、費用や納期を検討し、情報システムの開発に関する管理及びシステム監査・関連法規を理解する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ システム化計画	・企業の情報戦略の策定 ・システム化計画の目的と要件定義 ・調達計画
	■ 開発プロセス及び管理	・ソフトウェア開発手法 ・プロジェクトマネジメント ・サービスマネジメント ・ファシリティマネジメント
	■ システム監査・内部統制及び関連法規	・システム監査 ・内部統制 ・知的財産権、労働関連法規、取引関連法規
	演習（例）	・システム化計画の目的と要件定義のまとめ方 ・各種システム開発のメリット・デメリットについて ・プロジェクト管理の進め方
	応用・実践要素（例）	・システム化に対する費用対効果の取りまとめ ・システム開発段階の監査の進め方

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

A 生産管理
・在庫管理システムの導入
A 流通・物流
・流通システム設計
・物流システム設計
A バックオフィス
・IoT活用によるビジネス展開
・クラウドを活用したシステム導入
・クラウドを活用した情報共有能力の拡充
・テレワーク活用
・テレワークを活用した業務効率化
・ITツールを活用した業務改善
・データ活用で進める業務連携
・失敗しない社内システム導入
・企業内でIT活用を推進するために必要な技術理解
B 組織マネジメント
・成果を上げる業務改善
・ムダを発見するための業務プロセスの見える化と業務改善 ほか

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入

人材育成上の課題・目標

- ・DXの推進を考えているがその導入手順を知りたい
- ・DX導入に必要なシステム開発の概要を知りたい
- ・システム化の全体像を理解し、ITベンダに対する確かな要望を出せるようになりたい
- ・DX導入手法とメリット、デメリットを知りたい
- ・デジタル技術を導入する前に、費用対効果を検証したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・DX導入の動向を知る
- ・IT新技術の動向を知る
- ・DX推進のノウハウを理解する
- ・開発するシステムの全体像を把握し、管理できる
- ・DX導入の推進役を務めることができる

コースのねらい

自社の業務変革を目指して、業務のシステム化に向け、自社のニーズに合致したシステムを企画できる知識を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ DX導入手法とデジタル技術の活用	・DXの導入手法の事例紹介 ・デジタイゼーション ・デジタライゼーション
	■ DX導入手順	・DX推進部門（担当）の設置 ・現状分析と課題の洗い出し ・ビジョンの共有、見える化
	■ システム開発手法	・システム活用・開発工程の上流部の内製化 ・アジャイル開発の進め方 ・開発スケジュール計画
	■ DX推進検証	・P o Cを使用した検証
	演習（例）	・データ収集・蓄積・加工（形式の統一） ・データ活用・データ利用 ・P o Cを使用した検証
応用・実践要素（例）		・DXに必要なITスキルの理解と専門メンバの育成 ・関係会社間のデータ統合

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A 生産管理
 - ・在庫管理システムの導入
 - A 流通・物流
 - ・流通システム設計
 - ・物流システム設計
 - A バックオフィス
 - ・データ活用で進める業務連携
 - ・企業内でIT活用を推進するために必要なマネジメント
 - ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
 - B 組織マネジメント
 - ・成果を上げる業務改善
 - ・ムタを発見するための業務プロセスの見える化と業務改善
 - ・DX人材育成の進め方
- ほか

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

ベンダーマネジメント力の向上

人材育成上の課題・目標

- ・ベンダーのマネジメント手法を知りたい
- ・自社に最適なシステム開発会社の選定したい
- ・システム開発に必要な発注者の役割の理解したい
- ・契約後、発注者としての職務を理解したい

課題解決・目標達成を目指して

- ・ベンダーマネジメントの重要性を理解する
- ・ベンダーの選定方法を理解する
- ・ベンダーを管理する手法を理解する

コースのねらい

情報システム開発の発注者（ユーザー企業）として知っておくべき事項を理解し、システム開発会社（ベンダー）との良好な関係を築くためのベンダーマネジメント手法を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ ベンダーマネジメントの概要	・ITシステムの「2025年の崖」とは ・ベンダーマネジメントとは ・VMOの編成
	■ ベンダーの選定	・ベンダーの選定・評価方法 ・システム開発プロジェクトの成功例、失敗例の紹介
	■ VMOが担う役割	・契約管理 ・リスク管理 ・モチベーション管理手法 ・パフォーマンス管理手法 ・QCDを改善するための検討
	演習（例）	・ベンダーマネジメントのフレームワーク ・システム開発例を用いたVMO演習
応用・実践要素（例）		・ベンダー評価シートの作成

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
 - ・在庫管理システムの導入
 - A 流通・物流
 - ・流通システム設計
 - ・物流システム設計
 - A バックオフィス
 - ・データ活用で進める業務連携
 - ・失敗しない社内システム導入
 - ・企業内でIT活用を推進するために必要なマネジメント
 - B 組織マネジメント
 - ・成果を上げる業務改善
 - ・ムダを発見するための業務プロセスの見える化と業務改善
 - ・DX人材育成の進め方
- ほか

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

IT新技術による業務改善

人材育成上の課題・目標

- ・新技術の導入事例が知りたい
- ・デジタル化のメリット・デメリットが知りたい
- ・自社内でデジタル化できる業務を知りたい
- ・自社業務に適切な新技術を選定したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・新技術の動向を知る
- ・第4次産業革命下、生産性向上につながる新技術を理解する
- ・自社に適したツールを知る
- ・IT化する課題を検討できる

コースのねらい

第4次産業革命下における新技術を含めたITを活用し、作業の自動化や共有能力の拡充等により新たな業務の合理化・迅速化が図られていることを理解し、自社業務に適切な新技術を選定する知識を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 新技術の概要	・IoTとは ・ビッグデータの活用 ・AIの進化 ・クラウド概要 ・RPAの機能の概要
	■ 新技術の導入事例	・各種新技術を活用した事例紹介（事業拡大や新たな事業創出に繋がった例）
	演習（例）	・自社課題におけるデジタル化の検討 ・課題を通じた新技術によるビジネス展開演習
	応用・実践要素（例）	・IT化の必要性に係る検討 ・クラウドサービスを活用した業務の効率化 ・VDI（仮想デスクトップインフラ）を利用したオフィス環境構築

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A バックオフィス
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
 - ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入
 - ・クラウド活用入門 ・クラウドを活用したシステム導入
 - ・クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 - ・導入コストを抑えるクラウド会計・モバイルPOSレジ活用
 - ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・IoT導入に係る情報セキュリティ
 - ・RPAを活用した業務効率化・コスト削減
 - ・RPA活用 ・テレワーク活用
 - ・テレワークを活用した業務効率化
 - ・ITツールを活用した業務改善
 - ・AI（人工知能）活用 ・ビッグデータ活用
- B 組織マネジメント
- ・IoTを活用したビジネスモデル ほか

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

AI（人工知能）活用

人材育成上の課題・目標

- ・ AI の仕組みを知りたい
- ・ AI の導入事例を知りたい
- ・ AI 活用のメリット・デメリットを知りたい
- ・ AI の活用方法がわからない



課題解決・目標達成を目指して

- ・ AI の仕組みを知る
- ・ AI の導入事例を知る
- ・ AI を業務に活用する方法を理解する
- ・ AI の活用における課題を知る

コースのねらい

AI（人工知能）の概要とビジネスの現場におけるAIの具体的な活用場面等について理解し、AI活用に係る知識を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ AI（人工知能）の概要	・ AI（人工知能）とは ・ 機械学習 ・ ニューラルネットワーク ・ ディープラーニング
	■ AIの活用事例と今後の展望	・ AIの具体的な活用事例紹介 ・ AI導入の課題 ・ AIの今後の展望
	演習（例）	・ 課題を通じたAIを活用したビジネス展開演習 ・ クラウドサービスを利用した機械学習/AI体験 ・ 機械学習/AI体験を利用したビジネス展開演習
	応用・実践要素（例）	・ 自社におけるAI活用の検討 ・ AI活用における課題・分析 ・ AIを活用したサービス構築演習

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A バックオフィス
- ・ DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
 - ・ DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入
 - ・ クラウド活用入門
 - ・ クラウドを活用したシステム導入
 - ・ クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 - ・ IoT活用によるビジネス展開
 - ・ IoT導入に係る情報セキュリティ
 - ・ IT新技術による業務改善
- B 組織マネジメント
- ・ IoTを活用したビジネスモデル ほか

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

ビッグデータ活用

人材育成上の課題・目標

- ・ビッグデータの活用事例が知りたい
- ・ビッグデータ活用のメリット・デメリットを知りたい
- ・ビッグデータを活用し分析を図りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・ビッグデータとは何か理解する
- ・ビッグデータの活用方法や活用事例を知る
- ・ビッグデータを活用したデータマイニングなどの分析手法を知る

コースのねらい

ビッグデータの活用に当たって必要な情報を選定する方法を理解し、ビジネス展開できる知識を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ データの収集	・ビッグデータとは ・必要情報の整理と収集 ・オープンデータの活用
	■ ビッグデータの活用	・データ収集基盤と分析基盤 ・データマイニングとは ・ビッグデータの活用事例
	演習（例）	・自社が所有するビッグデータの洗い出し ・オープンデータのビジネス展開の検討 ・データマイニングを用いたビッグデータ解析演習
	応用・実践要素（例）	・自社におけるビッグデータ活用の検討 ・ビッグデータ利用のためのAI・クラウド活用事例 ・ビッグデータ活用に伴うセキュリティ対策

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A バックオフィス
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
 - ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入
 - ・クラウド活用入門
 - ・クラウドを活用したシステム導入
 - ・クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 - ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・IoT導入に係る情報セキュリティ
 - ・IT新技術による業務改善
- B 組織マネジメント
- ・IoTを活用したビジネスモデル

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

055

RPAを活用した業務効率化・コスト削減

人材育成上の課題・目標

- ・定型の事務処理などを自動化したい
- ・業務の効率化をめざして、RPAを導入したい
- ・間接部門の人件費を削減したい
- ・コスト削減と併せて質の高い製品・サービスを提供したい
- ・先進的なRPA導入事例を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・RPAの機能、特徴とRPA導入のメリットを理解する
- ・RPA導入上の問題検証を知る
- ・RPA導入におけるコスト削減策を作成する
- ・先進的な導入事例を知る

コースのねらい

業務の効率化とコスト削減をめざして、RPAの技術概要や活用事例、活用検討にあたってのポイントを理解し、RPAを活用した自社業務の課題解決策立案に繋げることができる能力を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 業務を自動化するRPA (Robotic Process Automation)	・RPAの機能の概要 ・RPAの特徴（活用の向き／不向き） ・RPAを導入するメリット ・RPAの活用事例
	■ RPAを活用した業務効率化とコスト削減策の立案	・RPA活用のための業務の見える化 ・RPA活用による業務効率化の検討 ・RPA導入コストと削減コストの比較 ・導入に係るコスト削減策立案
	演習（例）	・自動化・定型化できる業務の洗い出し演習 ・RPA導入上の問題検証 ・自社内業務の自動化検討演習
	応用・実践要素（例）	・RPAが適用できる定型業務事例の紹介 ・RPA導入によるコスト削減の成功例と失敗例 ・RPA導入の必要性に係る検討

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A バックオフィス
- ・クラウド活用入門
 - ・クラウドを活用したシステム導入
 - ・IoT活用によるビジネス展開
- B 組織マネジメント
- ・IoTを活用したビジネスモデル

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

RPA活用

人材育成上の課題・目標

- ・ RPA (Robotic Process Automation) を活用して業務の効率化を図りたい
- ・ RPA を使用してみたい
- ・ RPA を活用した業務の自動化を行いたい
- ・ RPA 導入方法を知りたい
- ・ RPA 導入後の保守について知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・ 実際に RPA ツールにふれ理解する
- ・ RPA の特徴と導入方法について理解する
- ・ RPA 活用に必要な運用ルールについて理解する
- ・ RPA の活用方法を習得する

コースのねらい

業務の自動化による生産性の向上を目指して、RPAの概要や導入手順、活用方法を理解する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ RPAの導入手順	・ RPAの概要と導入の流れ ・ RPAの適用範囲（対象業務）の決定 ・ 対象業務のプロセスや業務量のまとめ ・ RPAの運用ルールの整備
	■ RPAの活用方法	・ RPAツールの種類 ・ コーディング方法と実行 ・ 動作テスト・検証
	■ RPA開発の役割	・ 自社開発のメリット・デメリット ・ 自社開発とベンダーによる開発 ・ 運用と保守
	演習（例）	・ 自動化が可能な業務の抽出 ・ RPAを使用した業務自動化
応用・実践要素（例）		・ 自動化したい業務内容に適したRPAの選定 ・ 自社内業務を想定したRPAの活用 ・ RPA導入前後におけるコストの比較 ・ RPA運用上の課題とその対策

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
 なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
 ※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

初任層、中堅層

関連コース

- A バックオフィス
 - ・ RPAを活用した業務効率化・コスト削減
 - ・ クラウド活用入門
 - ・ クラウドを活用したシステム導入
 - ・ クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 - ・ I o T活用によるビジネス展開
 - ・ I o T導入に係る情報セキュリティ
 - ・ I T新技術による業務改善
- B 組織マネジメント
 - ・ I o Tを活用したビジネスモデル ほか

使用機器等

RPA導入済パソコン

119

DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

人材育成上の課題・目標

- ・DXの事例が知りたい
- ・顧客及び社会のニーズを基に、ビジネスモデルを変革させたい
- ・従来の組織、企業文化・風土を見直したい
- ・DXの推進に必要な社内体制を構築したい
- ・DXの推進に必要な知識、デジタル技術を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・各企業におけるDX推進の動向を知る
- ・DXを推進する関係者間での共通理解の形成や社内推進体制の整備といった事業変革の環境整備への取り組みが必要なことを理解する
- ・DX推進のための経営のあり方、仕組みを理解する
- ・現状の課題から、DX推進のためにとるべきアクションを検討できる
- ・IT新技術の動向を知る

コースのねらい

DX（デジタルトランスフォーメーション）による企業変革の有効性を理解し、自社のDX推進に向けたポイントを習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ DX概論	・DXとは ・企業に求められる変革 ・DXの認知・理解（目標設定）
	■ DX導入事例	・DXに成功した事例紹介 ・成功の要件（戦略性、費用対効果）
	■ DX戦略の導入	・DX推進体制の整備 ・業務プロセスの再設計 ・DXの具体的な取組領域の決定 ・DXを推進するためのデジタル技術の概要
	演習（例）	・自社課題におけるデジタル化の検討 ・課題を通じたDXによるビジネス展開演習 ・DX推進指標を活用した推進状況の把握
応用・実践要素（例）		・デジタル企業へ迅速に変革する能力の獲得（ベンダー企業、DX人材の確保）

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

- ※ 金額は、1名あたりの受講料です。
- ※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

管理者層

関連コース

- A バックオフィス
- ・クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 - ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・ITツールを活用した業務改善
 - ・IT新技術による業務改善
 - ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入
- B 組織マネジメント
- ・ダイバーシティ・マネジメントの推進
 - ・企画力向上のための論理的思考法
 - ・成果を上げる業務改善 ・組織力強化のための管理
 - ・プロジェクト管理技法の向上
 - ・DX人材育成の進め方 ほか

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

データサイエンス入門

人材育成上の課題・目標

- ・データサイエンスを行う有用性を知りたい
- ・データサイエンスによりビジネス価値が生まれた事例を知りたい
- ・自社データをビジネスに活用したい
- ・得られたデータを解析、分析したい

課題解決・目標達成を目指して

- ・データサイエンスを活かせるフィールドを知る
- ・データサイエンスを活用するための分析手法を習得する
- ・分析結果から使用できるアクションを選択できる

コースのねらい

ビジネスに展開するためのデータの活用方法を理解し、データサイエンスを活用するための分析手法を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ データサイエンス概論	・データサイエンスとは ・データサイエンスの役割 ・データサイエンティストとデータアナリストの違い ・データサイエンスを活用したビジネスの事例紹介
	■ データリテラシー	・データ理解、解釈、分析 ・統計解析を用いたデータ分析基礎
	■ データサイエンスの手法	・データ分析のためのデータの取得と管理 ・記述統計 ・推測統計 ・機械学習（AI）
	演習（例）	・データ分析の基礎（手法と事例） ・表計算ソフトを用いたデータ分析 ・機械学習（AI）フレームワーク体験
応用・実践要素（例）		・解析演習（BIツールの活用方法等） ・データマイニング ・課題を通じたデータサイエンスによるビジネス展開及び演習

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。

※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A バックオフィス
- ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・AI（人工知能）活用
 - ・ビッグデータ活用
- B 組織マネジメント
- ・IoTを活用したビジネスモデル
- C 営業・販売
- ・統計データ解析とコンセプトメイキング
- D データ活用
- ・効率よく分析するためのデータ集計
 - ・表計算ソフトを活用した統計データ解析

使用機器等

パソコン

022

I o T を活用したビジネスモデル

人材育成上の課題・目標

- ・ I o T、ビッグデータがよく理解できていない
- ・ I o T、ビッグデータがビジネスに与える影響やメリットがわからない
- ・ 自社で I o T、ビッグデータを活用できるのか分らない
- ・ I o Tなどでビッグデータを自社で蓄積しているが、具体的な活用方法が分らない



課題解決・目標達成を目指して

- ・ I o T、ビッグデータの動向や利活用事例などから概要を理解する
- ・ バリューチェーンに沿った各業種に及ぼされる I o Tの影響を把握する
- ・ 自社における I o Tビジネス展開を具体的に検討する
- ・ ビッグデータ活用の成功・失敗事例から自社への適用の是非を検討する
- ・ ビジネス展開のための I o T活用の際の制約・注意事項を把握する

コースのねらい

自社における I o Tを活用したビジネスの展開をめざして、I o Tやビッグデータ活用の進展によるビジネス環境の変化や動向を理解し、I o Tビジネスを具体的に検討するためのポイントを習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ I o Tとビッグデータ活用	・ I o Tやビッグデータによる環境変化と動向 ・ 企業における I o T利活用
	■ I o Tを活かした事業戦略	・ バリューチェーンに沿って各業種に I o Tが及ぼす影響 ・ I o Tを活用したビジネスを展開するための制約及び注意点 ・ スマートファクトリーの現状
	演習（例）	・ ビッグデータ分析演習 ・ I o Tに対応するビジネス展開のための問題点検証 ・ 自社における I o Tビジネス展開の具体的な検討（グループワーク）
	応用・実践要素（例）	・ ウェアラブル端末データの活用方法 ・ データの収集、蓄積、処理に関する技術 ・ ビッグデータを活用した企業の成功事例及び失敗事例の紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

- ※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

管理者層

関連コース

- A バックオフィス
- ・ クラウド活用入門
 - ・ I o T活用によるビジネス展開
 - ・ クラウドを活用したシステム導入
 - ・ I o T導入に係る情報セキュリティ
- C プロモーション
- ・ チャンスをつかむインターネットビジネス

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

ビジネスとSDGs（持続可能な開発目標）の融合

人材育成上の課題・目標

- ・SDGsの概要を知りたい
- ・SDGsがどのようにビジネス成長のチャンスとなるのか知りたい
- ・SDGsの取り組み方法を知りたい
- ・SDGsを意識したバリューチェーンの強化、見直しをしたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・SDGsに取組み、社会が抱える様々な課題を知る
- ・企業によるビジネスとSDGsや社会課題解決の関係を理解する
- ・SDGsとSociety 5.0、DXとの関連性を知り、ビジネスにおいて新たな市場の開拓、ビジネスモデルの変革に繋がることを理解する
- ・バリューチェーンを理解する
- ・SDGsの取組事例を知る

コースのねらい

世界中の企業がSDGsを経営の中に取り込もうと力を注いでおり、SDGsを経営に組み込むべく様々な取組が進められている中でSDGsの必要性を理解し、自社のビジネスの成長につなげる知識を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ SDGsの概要	・SDGsとは ・SDGs経営ガイドとは ・SDGsとSociety 5.0、DXの関連性
	■ SDGsの取組	・SDGsの取組事例の紹介 ・SDGsに取組むことのメリット（企業イメージの向上、社会課題への対応企業の生存戦略、新たな市場の開拓等）
	■ 開発目標の戦略	・SDGsコンパスを活用した企業取組 ・KPIの設定方法
	演習（例）	・課題を通じたSDGsバリューチェーンの分析 ・自社における課題の洗い出し
	応用・実践要素（例）	・自社におけるSDGsの展開の検討 ・DXを活用したビジネスモデルの検討

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- B 組織マネジメント
- ・ダイバーシティ・マネジメントの推進
 - ・現場社員のための組織行動力向上
 - ・顧客満足度向上のための組織マネジメント
 - ・成果を上げる業務改善
 - ・組織力強化のための管理
 - ・管理者のための問題解決力向上

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

e ビジネスにおけるリーガルリスク

人材育成上の課題・目標

- ・インターネットを使って事業活動の効率化を図りたい
- ・電子商取引に関連する手続きについて知りたい
- ・e ビジネス活動のトラブル事例が知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・e ビジネス活動に係る法律（規制）を理解する
- ・e ビジネス活動におけるリスクマネジメントを理解する
- ・e ビジネス活動に係るリスクの調査・分析から対策を立案する
- ・e ビジネスに係る犯罪・トラブルの事例を知る

コースのねらい

e ビジネス活動に関する法律及びリスクの分析方法を理解し、リーガルリスクの察知及びリスク対応ができる知識を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ e ビジネス法務の体系と取引法務	・e ビジネス活動と法律との関係 ・企業取引の法務 ・債権の管理と回収
	■ 企業活動に関する規制	・企業活動を規制する法律の種類と内容 ・取引に関する規制 ・ビジネスと犯罪
	■ リスクマネジメントの役割	・リスクマネジメントとは ・e ビジネスにおけるリスクマネジメントの必要性 ・リスク調査と分析
	演習（例）	・e ビジネスに係る規約作成演習 ・e ビジネスに対する規制法規に係る事例を通じたグループワーク ・e ビジネス展開における自社で想定されるリスク分析演習
	応用・実践要素（例）	・e ビジネスに対する規制法規 ・クラウド活用における情報セキュリティ技術について ・e ビジネスを展開する企業におけるリスク管理事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

管理者層

関連コース

- B 組織マネジメント
 - ・個人情報保護と情報管理
 - ・リスクマネジメントによる損失防止対策
- C マーケティング
 - ・マーケティング戦略概論
- C プロモーション
 - ・チャンスをつかむインターネットビジネス

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

ネット炎上時のトラブル対応

人材育成上の課題・目標

- ・ネット炎上の原因を知りたい
- ・ソーシャルメディアリスクを社員の意識に浸透させたい
- ・SNSの社内ルールを作成したい
- ・ネット上での防火/消火体制を整備したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・ネット炎上の発生プロセスを知る
- ・ネット炎上のメカニズムと求められる企業対応を理解する
- ・ソーシャルメディアポリシーを作成する
- ・ネット炎上の防火/消火対策・ガイドラインを策定する

コースのねらい

企業や従業員のインターネットによる投稿を発端に、事業継続が困難な状況にまでいたる可能性への対策として、ネット炎上時のトラブルに対応するための知識について習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ ネット炎上とその被害	・ネット炎上の発生プロセス ・ネット投稿者の心理と状況 ・ネット炎上による被害事例
	■ ネット炎上時の対応	・ネット炎上状況の把握 ・社としての対応体制 ・ネット炎上の状況悪化の事例 ・ネット炎上に伴う法的対応
	■ ネット炎上の予防と対策	・社内ルールの整備 ・ネットリテラシーに係る従業員教育 ・ネット投稿のモニタリング
	演習（例）	・ネット炎上のメカニズムと求められる企業対応演習 ・ネット上のリスクの洗い出しに関するグループワーク ・ソーシャルメディアの運用ポリシーの作成演習
	応用・実践要素（例）	・個人情報の管理と情報漏洩への対応 ・ネット炎上の防火/鎮火事例、ガイドライン策定事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

管理者層

関連コース

- A バックオフィス
 - ・クラウドを活用したシステム導入
 - ・IoT導入に係る情報セキュリティ
- B 組織マネジメント
 - ・IoTを活用したビジネスモデル
- C プロモーション
 - ・チャンスをつかむインターネットビジネス

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

テレワーク業務における労務管理

人材育成上の課題・目標

- ・テレワーク促進のための新たな対応・準備について知りたい
- ・テレワーク時の管理方法を知りたい
- ・テレワークにおける就業規則に必要な知識を得たい
- ・テレワークにおける勤怠管理を見直したい
- ・従来の人事評価を見直したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・テレワーク促進のための課題を理解する
- ・テレワークに対応した就業規則の策定に必要な知識を理解する
- ・テレワークにおける勤怠管理の方法を理解する
- ・テレワークに対応した人事評価制度を検討できる
- ・テレワークにおける安全衛生対策を知り、対応策を検討できる

コースのねらい

テレワーク特有の労務管理上の課題及び対応策を理解し、自社の労務管理を見直していくためのポイントを習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 労働時間の管理	・テレワーク移行に係る課題 ・事業場外みなし労働時間制 ・残業手当の取扱い ・管理手法（タスク管理など）
	■ テレワーク時の部下の評価	・テレワーク時の問題点 ・評価基準の見直し（エビデンスとプロセスの確認）
	■ テレワークにおける安全衛生の確保と管理	・安全衛生関係法令の適用 ・メンタルヘルス対策と管理（ラインケア、セルフケア） ・テレワーク時の作業環境整備
	演習（例）	・テレワーク対応就業規則作成演習 ・テレワーク移行計画の策定
	応用・実践要素（例）	・リモートハラスメント ・労務管理のアウトソーシング事例 ・在宅勤務企業の実例と課題

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A バックオフィス
 - ・テレワークを活用した業務効率化
 - ・テレワーク活用
- B 組織マネジメント
 - ・ダイバーシティ・マネジメントの推進
 - ・組織力強化のための管理
 - ・従業員満足度の向上
 - ・ストレスチェック制度を用いた職場環境改善と生産性向上

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

D X 人材育成の進め方

人材育成上の課題・目標

- ・ D X を推進する内部組織を作りたい
- ・ 社員一人ひとりが D X を自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようにしたい
- ・ D X を推進するために必要な人材を知りたい
- ・ D X を推進するための職種と役割を知りたい
- ・ D X 推進のスキルの習得方法を知りたい
- ・ 人材育成方針を作成したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・ D X 推進における自社に合った組織体制を理解する
- ・ 社員が D X リテラシーを身につけることで、変革に向けて行動できる
- ・ D X 推進人材に必要な種類と役割を理解する
- ・ D X 推進に必要な人材の確保について理解する
- ・ D X 推進に必要なスキル、不足する人材の質と量を理解する
- ・ D X 推進に必要な人材育成方針を計画できる

コースのねらい

自社内において D X を推進するに当たり、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革する人材の育成方法を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ D X リテラシーと業務改革	・ D X リテラシー標準とは ・ D X 推進に係る組織体制 ・ D X 人材の確保
	■ D X 推進を担う人材	・ D X リテラシーを身につけた人材イメージ ・ 推進役と各部門の連携 ・ 外部組織との連携
	■ D X 人材の育成方法	・ 推進役の育成 ・ 必要なスキル、不足する人材の質と量の明確化 ・ リスキリング ・ 育成方針の作成
	演習（例）	・ 自社において不足している D X 人材の洗い出しと育成方針の作成
応用・実践要素（例）		・ 人材不足を乗り越えるための対策

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A バックオフィス
- ・ D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進
 - ・ D X (デジタルトランスフォーメーション) の導入
 - ・ I T 活用によるビジネス展開
 - ・ I T ツールを活用した業務改善
 - ・ データ活用で進める業務連携
 - ・ I T 新技術による業務改善
 - ・ 企業内で I T 活用を推進するために必要なマネジメント
 - ・ ベンダーマネジメント力の向上
- B 組織マネジメント
- ・ 組織力強化のための管理
 - ・ プロジェクト管理技法の向上

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

027

マーケティング志向の営業活動の分析と改善

人材育成上の課題・目標

- ・お客様の声を新商品・サービスに反映できていない
- ・商品・サービスのラインナップが要望に応じきれていない
- ・自社の商品・サービスのセールスポイントを最大限活かせていない
- ・営業と生産部門間の意思疎通が図れていない
- ・営業活動の方法が個々でマチマチである
- ・営業のノウハウが共有化できていない
- ・ITを有効活用できていない



課題解決・目標達成を目指して

- ・マーケティングの本質を再確認する
- ・営業活動とマーケティングの関係を理解する
- ・顧客が求める新商品・サービスの提案方法を理解する
- ・営業活動の現状把握と分析方法を理解する
- ・営業活動の改善策を検討する
- ・自社における営業活動を標準化する
- ・ITの営業への導入・活用事例を知る

コースのねらい

マーケティングの本質とマーケティング志向の営業活動を理解し、自社の商品又はサービスの価値を提供するに当たってのマーケティング志向の営業活動について、分析し、改善策の検討方法などを習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ マーケティングの本質	・マーケティングの基礎 ・マーケティングの考え方 ・顧客とニーズ ・マーケティングの本質
	■ マーケティング志向の営業活動	・顧客が求める商品とサービスの提案 ・ニーズと自社商品をつなぐ営業の役割 ・営業プロセスの標準化 ・ITを活用した購買行動の分析 ・顧客の信頼獲得と広報の活用
	■ 営業活動の分析と改善	・営業活動の現状把握と分析 ・顧客が求める価値の分析 ・営業活動の改善策の検討
	演習（例）	・ニーズを踏まえた営業活動のプラン策定演習 ・顧客における購買思考に係るディスカッション ・営業活動を分析し、改善策の検討
応用・実践要素（例）		・マーケティングミックスについて ・RFIDを用いた識別・管理の仕組み ・マーチャンダイジングの実態

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- C 営業・販売
 - ・統計データ解析とコンセプトメイキング
 - ・顧客分析手法
- C マーケティング
 - ・実務に基づくマーケティング入門
 - ・マーケット情報とマーケティング計画（調査編）
 - ・マーケット情報とマーケティング計画（販売編）
- C 企画・価格
 - ・新サービス・商品開発の基本プロセス

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

028

統計データ解析とコンセプトメイキング

人材育成上の課題・目標

- ・アンケート結果や各種統計データなどを商品開発や営業に活かしていない
- ・根拠に基づいた計画的な営業活動ができていない
- ・顧客や社員のアイデアを営業に活かしていない
- ・営業方針が全社的に統一されていない



課題解決・目標達成を目指して

- ・データ解析・分析手法を理解する
- ・コンセプトメイキングを理解する
- ・データ分析に基づく営業手法を理解する
- ・営業企画書の作成方法を理解する

コースのねらい

統計的データの解析法と活用方法、コンセプトメイキングの方法を理解し、各種エビデンスに基づく、営業企画書作成方法を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 統計的データ解析法と活用	・1次元データ分析 ・2次元データ分析 ・多変量解析
	■ コンセプトメイキング	・情報収集・分析 ・コンセプトメイキング
	■ 営業企画書作成	・企画書の作成手順 ・ターゲットの設定 ・各種表現技法 ・企画書の作成法
	演習（例）	・統計的データ解析演習 ・情報分析とコンセプトメイキングの問題点の検証 ・自社のコンセプトに基づく企画書作成演習
応用・実践要素（例）		・営業としての財務分析について ・ビッグデータの活用によるコンセプトメイキング ・データマイニング手法

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- B 組織マネジメント
- ・ナレッジマネジメント
- C 営業・販売
- ・マーケティング志向の営業活動の分析と改善
- ・顧客分析手法
- C マーケティング
- ・マーケット情報とマーケティング計画（調査編）
- ・マーケット情報とマーケティング計画（販売編）
- C 企画・価格
- ・新サービス・商品開発の基本プロセス

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

オンライン営業技術

人材育成上の課題・目標

- ・対面営業との違いを知りたい
- ・新たな新規顧客の開拓方法を知りたい
- ・オンライン営業時の顧客からの情報（ニーズ）の収集方法を知りたい
- ・テレワークにおけるチーム連携を強化したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・様々なオンライン営業の方法を理解する
- ・対面営業とオンライン営業の違いを理解する
- ・テレワーク時における社内の情報共有の方法を理解する

コースのねらい

テレワーク時に必要な営業コミュニケーション方法を理解し、テレワークに適応した営業技術を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ オンライン営業概論	・オンライン営業に関するよくある誤解 ・テレポとの相違点 ・アウトサイドセールスからインサイドセールスへ
	■ 顧客開拓	・社内の顧客情報の整理 ・商品紹介手法の多様化 ・顧客のスクリーニング（審査、選別）
	■ 顧客とのリレーション	・顧客と営業担当との関係性の変化 ・オンライン営業による顧客対応方法
	■ 社内の情報共有	・進捗管理の方法 ・各種営業ツール(SFA、CRM) SFA：営業支援システム CRM：顧客関係管理
	演習（例）	・オンライン営業の営業戦略作成演習 ・オンライン営業実演 ・インサイドセールス実践（メルマガ作成）
応用・実践要素（例）		・商品紹介動画の活用 ・中小企業におけるCRMの導入事例 ・オンライン営業特化型企業の実例と課題

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

初任層、中堅層

関連コース

- A バックオフィス
 - ・テレワークを活用した業務効率化
- C 営業・販売
 - ・提案型営業手法
 - ・提案型営業実践
 - ・マーケティング志向の営業活動の分析と改善
 - ・顧客分析手法
- C マーケティング
 - ・インターネットマーケティングの活用
- D 情報発信
 - ・オンラインプレゼンテーション技術

使用機器等

パソコン、Web会議用ソフト

顧客分析手法

人材育成上の課題・目標

- ・購買パターンが掴みきれていない
- ・売上げに繋がる効果的な販促ができていない
- ・過剰在庫が常態化している
- ・ITを活用した顧客データの分析ができない



課題解決・目標達成を目指して

- ・データマイニング手法を理解する
- ・顧客分析手法を理解する
- ・ITを活用したデータ解析手法を理解する
- ・ITを活用した購買予測方法を理解する

コースのねらい

データマイニング手法の活用方法を理解し、ITを活用した営業、マーケティングのための予測方法を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ データマイニングの適用効果	・売上高向上（販促効果分析、売上予測、併せ買いパターン） ・コストダウン（適正在庫、ロスの削減） ・顧客満足向上（アンケート分析、顧客囲い込み）
	■ 顧客分析（セグメント、購買パターン、バスケット、販促効果）	・顧客セグメンテーション ・顧客購買パターン分析 ・ショッピングバスケット分析 ・販売促進効果測定 ・棚割、レイアウト変更
	■ 分析手法（クロス集計、相関・回帰分析、要因分析）	・クロス集計分析 ・相関、回帰分析 ・予測、要因分析
	演習（例）	・購買パターン分析演習 ・データマイニング手法導入における問題点検証 ・自社のデータマイニング適応範囲の企画
応用・実践要素（例）		・テキストマイニングについて ・ビッグデータを有効活用した事例紹介 ・データマイニングを活用した市場動向調査

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- B 組織マネジメント
 - ・個人情報保護と情報管理
- C 営業・販売
 - ・マーケティング志向の営業活動の分析と改善
 - ・統計データ解析とコンセプトメイキング
 - ・顧客満足向上のためのCS調査とデータ分析
- C マーケティング
 - ・実務に基づくマーケティング入門
 - ・マーケット情報とマーケティング計画（調査編）
 - ・マーケット情報とマーケティング計画（販売編）

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

045

顧客満足向上のためのCS調査とデータ分析

人材育成上の課題・目標

- ・顧客満足の本質が掴めていない
- ・顧客とのコミュニケーション不足
- ・CS向上が全社的に取り組めていない
- ・CSに関する調査の方法がわからない
- ・顧客満足度調査の結果が分析できていない



課題解決・目標達成を目指して

- ・CSの本質、目的を理解する
- ・CS向上のための社内体制の構築方法を理解する
- ・CS調査の実施手順を理解する
- ・CS調査結果の読み方、活用方法を理解する

コースのねらい

顧客満足の本質を理解することで、顧客満足度の把握とデータ分析とその活用方法についての知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 顧客満足の本質	・CS（Customer Satisfaction）経営の背景と必要性 ・顧客満足の意義 ・顧客の定義
	■ 顧客満足のための社内体制	・CS経営の進め方 ・CSと企業文化 ・権限委譲 ・苦情対応
	■ 顧客満足度の把握とデータ活用	・CS度把握の方法 ・CS調査の実施と調査表の作成 ・CSデータ分析と活用 ・企業理念とビジョン
	演習（例）	・課題を用いたCSデータ分析演習 ・効果的なCS調査表の作成演習 ・職場におけるCS向上のためのグループ討議
応用・実践要素（例）		・顧客満足度調査に特有のアンケートテクニック ・CS度把握に係る最新動向 ・CSデータを有効活用した事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- C 営業・販売
- ・顧客分析手法
- C マーケティング
- ・実務に基づくマーケティング入門
- A バックオフィス
- ・IoT導入に係る情報セキュリティ
- B 組織マネジメント
- ・個人情報保護と情報管理

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

インターネットマーケティングの活用

人材育成上の課題・目標

- ・従来型の営業活動に限界を感じはじめている
- ・自社の商品・サービスのターゲットが限定されているため販路の拡大を図りたい
- ・リピーターがなかなか増えない
- ・インターネットを活用した調査方法、メリット・デメリットを知りたい
- ・インターネット広告の概要と費用対効果について知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・インターネットビジネスの流れを理解する
- ・インターネットとマーケティング活動の関連を整理する
- ・デメリットを念頭に入れたインターネット調査の方法を理解する
- ・リレーションシップの考え方を理解する
- ・ホームページやSNSの活用方法と広告のノウハウを知る

コースのねらい

インターネットマーケティングの概要を理解し、インターネット、ソーシャルメディア等を効果的に活用することで、顧客獲得のための施策を検討できる知識を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ インターネットマーケティング	・マーケティング活動としての位置づけ ・インターネットビジネスの流れ ・インターネットビジネスのポイント
	■ 顧客とのリレーションシップ	・顧客データベース ・ユーザ情報の収集、分析、活用 ・FSPデータとRFM分析 ・個人情報保護とセキュリティ
	■ インターネット調査と活用	・効果測定方法の分類 ・アクセス分析 ・クッキーを使用したアプローチ ・インターネット広告
	演習（例）	・リード・CV（コンバージョン）・LTV（ライフタイムバリュー）分析演習 ・効果的なWebサイトに係るグループ討議 ・SNSを活用したデータ分析演習
応用・実践要素（例）		・ネットビジネスに関連する法律について ・ビッグデータの活用・情報収集について ・インターネット調査と活用の最新事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A バックオフィス ・クラウド活用入門
- B 組織マネジメント ・eビジネスにおけるリーガルリスク
- C 営業・販売 ・顧客分析手法
- C マーケティング
 - ・実務に基づくマーケティング入門
 - ・マーケティング戦略概論
 - ・マーケット情報とマーケティング計画（調査編）
 - ・マーケット情報とマーケティング計画（販売編）
 - C プロモーション
 - ・チャンスをつかむインターネットビジネス

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

036

プロモーションとチャネル戦略

人材育成上の課題・目標

- ・自社製品に対する顧客の意見などの情報収集ができていない
- ・流通部門を巻き込んだ販売促進活動ができていない
- ・イメージ戦略をもっと活用したい
- ・価格や取引条件などの交渉がうまくいっていない



課題解決・目標達成を目指して

- ・マーケティングチャネルの考え方を理解する
- ・販売チャネル戦略を策定する
- ・イメージ戦略の手法と事例を知る
- ・生産システムの課題とSCM構築のポイントを理解する

コースのねらい

チャネルの機能とチャネル戦略のポイント、コミュニケーションのモデルとコミュニケーション戦略のポイント、従来型生産システムの課題とサプライチェーンマネジメント構築上の留意点について理解し、販売チャネル、プロモーション戦略の策定方法について習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ チャネル戦略	・マーケティングチャネルの機能 ・チャネル戦略
	■ プロモーション戦略	・コミュニケーションプロセス ・コミュニケーション戦略
	■ SCM (Supply Chain Management)	・経営環境の変化とサプライチェーンマネジメント ・ロジスティクス戦略
	演習（例）	・販売チャネル戦略の特徴の確認 ・チャネル戦略策定時の課題の検討 ・自社の生産システムの課題の解消に向けた策定演習
応用・実践要素（例）		・インバウンドとアウトバウンドとサプライチェーンについて ・ソリューションパッケージ活用の最新動向 ・現場における導入効果のポイントと事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A 流通・物流
 - ・3PLとSCM
 - ・流通システム設計
 - ・卸売業・サービス業の販売戦略
 - ・SCMの現状と将来展望
- C 企画・価格
 - ・製品・市場戦略
- C プロモーション
 - ・チャンスをつかむインターネットビジネス

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

047

チャンスをつかむインターネットビジネス

人材育成上の課題・目標

- ・ ホームページ、SNSを活用して効果的な広報をしたい
- ・ インターネット通販に参入したいが、不安がある
- ・ インターネットを活用することでコスト削減できると聞くが、メリットだけでなくデメリットも知りたい
- ・ 電子商取引について知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・ 広報効果を高めるデータ活用や事例を知る
- ・ インターネットビジネスの概要を知る
- ・ ネットビジネスのメリット・デメリットを把握する
- ・ eコマース導入効果の検証方法を理解する

コースのねらい

インターネットを活用した広告及びeコマースの現状を理解することで、インターネットを活用したビジネスチャンスの拡大を検討できる知識を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ インターネットビジネス概論	・ 現状と今後の展開 ・ 顧客満足度向上 ・ 新店舗の創造
	■ インターネット広告	・ インターネット広告とは ・ 特徴と利点 ・ インターネット広告の基礎知識 ・ 広告効果を高めるデータ活用法
	■ 電子商取引（eコマース）	・ eコマースの概要 ・ eコマースのメリット ・ 電子決済方法の種類 ・ eコマースモデル
	演習（例）	・ 広告効果測定事例に基づくケーススタディ ・ ネットビジネスにおけるメリット・デメリットのグループ討議 ・ eコマース導入効果の検証演習
応用・実践要素（例）		・ 収益化モデルの種類について ・ インターネット広告の最新動向 ・ 広告効果を高めた工夫の事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A バックオフィス
 - ・ クラウド活用入門
 - ・ IoT活用によるビジネス展開
 - ・ クラウドを活用したシステム導入
 - ・ IoT導入に係る情報セキュリティ
- B 組織マネジメント
 - ・ IoTを活用したビジネスモデル
 - ・ eビジネスにおけるリーガルリスク
- C マーケティング
 - ・ インターネットマーケティングの活用
- C プロモーション
 - ・ プロモーションとチャネル戦略

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

ワイヤレス環境に必要となる無線LANとセキュリティ

人材育成上の課題・目標

- ・無線LANの仕組みを知りたい
- ・無線LANのセキュリティ対策を知りたい
- ・設置場所や使用環境に応じたワイヤレス環境を選定したい
- ・想定されるトラブルとその対応を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・無線LANの通信規格や技術を理解する
- ・セキュリティ対策の方式を理解する
- ・設置場所や使用環境に応じた適切なワイヤレス環境を選定できる
- ・無線LANのトラブル事例から対応方法まで習得する

コースのねらい

ネットワークを活用した生産性向上を目指し、職場内でワイヤレス環境を構築する上で使用される無線LAN通信と無線LANのセキュリティの種類と特徴を理解する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 無線LANの技術	・無線LANの概要 ・無線LAN通信規格とその特徴 ・公衆無線通信について
	■ 無線LANのセキュリティ	・無線通信の危険性 ・無線LANの暗号化方式 ・アクセス制御技術
	■ 環境構築のポイント	・電波強度と電波干渉 ・無線LANコントローラ ・トラブル事例紹介
	演習（例）	・無線LANへの接続 ・各種暗号規格による接続設定（SSIDの検出と接続） ・トラブル対処事例
応用・実践要素（例）		・有線LANと無線LANの結合 ・無線LANのメリット・デメリット ・無線LANのアクセスポイントの監視

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
2,200円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
3,300円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 4～30時間の間で設定可能です。
※ 推奨訓練時間は、6～12時間です。

推奨対象者

ITを活用した業務改善に取り組む方

関連コース

A バックオフィス
 ・クラウド活用入門
 ・クラウドを活用したシステム導入
 ・クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 ・IoT導入に係る情報セキュリティ
 B 組織マネジメント
 ・IoTを活用したビジネスモデル
 D ネットワーク
 ・社内ネットワーク管理に役立つ管理
 D 倫理・セキュリティ
 ・脅威情報とセキュリティ対策 ほか

使用機器等

パソコン、無線LANルータ

社内ネットワークに役立つ管理手法

人材育成上の課題・目標

- ・ LANの基礎技術を習得したい
- ・ LANの構築に必要な機器を知りたい
- ・ パソコンやプリンタをネットワークに接続して使用したい
- ・ 社内LANに繋がっている機器の設定・管理方法を知りたい
- ・ 社内ネットワークのトラブル対処方法を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・ 社内使用するLANを管理することができる
- ・ パソコンやプリンタをネットワークに接続できる
- ・ 社内使用する機器の管理ができる
- ・ 新しい機器を購入する場合、IT業者に的確な要望を示すことができる
- ・ ネットワークの設定・管理に必要なTCP/IPコマンドを理解する
- ・ 社内ネットワークの不具合箇所の切り分け・特定ができる

コースのねらい

ネットワークを活用した生産性向上を目指し、ローカルエリアネットワーク（LAN）の技術や機器のネットワーク接続方法を習得し、ネットワーク設定に必要な通信プロトコル及びTCP/IPの基本コマンドを理解する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ LANの技術	・ LANの基礎知識 ・ LANの構成機器の概要 ・ LANの種類 ・ 通信規格
	■ パソコンLAN環境の設定	・ パソコンの設定 ・ ネットワークプリンタの設定
	■ 通信プロトコル	・ 通信プロトコルの概要 ・ OSI参照モデル
	■ TCP/IPの設定	・ TCP/IPとは ・ IPアドレスについて ・ ネットワークアドレッシング ・ TCP/IPコマンドの利用 ・ 接続機器の管理
	演習（例）	・ パソコンやネットワークプリンタの設定 ・ 接続機器の管理及び監視 ・ TCP/IPコマンドを利用したトラブル解決
応用・実践要素（例）		・ ネットワークの施工管理 ・ 無線LANの活用 ・ ネットワークセキュリティの管理

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
2,200円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
3,300円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 4～30時間の間で設定可能です。
※ 推奨訓練時間は、6～12時間です。

推奨対象者

ITを活用した業務改善に取り組む方

関連コース

- A バックオフィス
- ・ クラウド活用入門
 - ・ クラウドを活用したシステム導入
 - ・ クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 - ・ IoT導入に係る情報セキュリティ
- B 組織マネジメント
- ・ IoTを活用したビジネスモデル
- D ネットワーク
- ・ ワイヤレス環境に必要な無線LANとセキュリティ
- D 倫理・セキュリティ
- ・ 脅威情報とセキュリティ対策
- ほか

使用機器等

パソコン、LAN構成機器、TCP/IPソフトウェア

効率よく分析するためのデータ集計

人材育成上の課題・目標

- ・データの集計方法を知りたい
- ・アンケート結果等の結果を見やすくまとめたい
- ・集計データを分析に活用したい

課題解決・目標達成を目指して

- ・データの効果的な集計方法を理解する
- ・効率的なデータ集計を習得する

コースのねらい

効率よく大量のデータを分析するための、表計算ソフトを活用したデータ集計手法を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目		主な内容（例）
	■ データ集約		・データの種類と特徴 ・データの入力 ・ワークシートの活用 ・関数の活用
	■ データ集計		・データの並べ替え ・データの集計とグループ化 ・データの抽出と抽出条件設定
	■ データ集計に役立つ機能		・集計に役立つ関数 ・複数のワークシート集計（3D集計） ・ピボットテーブル機能
	演習（例）		・集計用関数の活用演習 ・ピボットテーブル活用演習
応用・実践要素（例）		・目的に合わせた効果的な集計手法（単純集計、クロス集計、ウエイトバック集計 等） ・統計、分析への活用	

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
 なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
2,200円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
3,300円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
 ※ 4～30時間の間で設定可能です。
 ※ 推奨訓練時間は、6～12時間です。

推奨対象者

ITを活用した業務改善に取り組む方

関連コース

- A 品質保証・管理
 - ・品質管理基本
 - ・品質管理実践
- B 組織マネジメント
 - ・業務効率向上のための時間管理
- C 営業・販売
 - ・統計データ解析とコンセプトメイキング
- D データ活用
 - ・表計算ソフトの活用した業務改善
 - ・業務に役立つ表計算ソフトの関数活用
 - ・表計算ソフトを活用した効果的なデータの可視化
 - ・ピボットテーブルを活用したデータ分析
 - ・品質管理に役立つグラフ活用
 - ・表計算ソフトを活用した統計データ解析 ほか

使用機器等

パソコン、表計算ソフト

ピボットテーブルを活用したデータ分析

人材育成上の課題・目標

- ・ピボットテーブルを理解したい
- ・ピボットグラフを作成したい
- ・リレーションシップを理解したい
- ・大量のデータを集計したい
- ・ピボットテーブルで多角的なデータの分析を行いたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・ピボットテーブルを理解する
- ・ピボットグラフの作成方法を習得する
- ・リレーションシップを理解する
- ・大量のデータの効率的な集計方法を習得する
- ・ピボットテーブルによる多角的なデータ分析方法を習得する

コースのねらい

表計算ソフトのピボットテーブル機能を活用し、効率よく大量のデータを集計し、様々な視点からデータの分析を行うための手法を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 多角的データ分析	・ピボットテーブルとは ・ピボットテーブルの活用
	■ ピボットグラフによるデータの見える化	・ピボットグラフとは ・ピボットグラフの種類の変更
	■ 複数テーブルの分析	・リレーションシップとは ・リレーションシップの設定
	演習（例）	・データベースからのピボットテーブル作成 ・ピボットテーブルからのピボットグラフ作成 ・複数テーブルのデータ集計
応用・実践要素（例）		・外部データベースを使用したピボットテーブル作成 ・リレーションシップを活用したピボットテーブル作成 ・ピボットテーブルによる相関分析

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
2,200円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
3,300円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 4～30時間の間で設定可能です。
※ 推奨訓練時間は、6～12時間です。

推奨対象者

ITを活用した業務改善に取り組む方

関連コース

- A 品質保証・管理
 - ・品質管理基本
 - ・品質管理実践
- B 組織マネジメント
 - ・業務効率向上のための時間管理
- C 営業・販売
 - ・統計データ解析とコンセプトメイキング
 - ・顧客分析手法
- D データ活用
 - ・表計算ソフトの活用した業務改善
 - ・業務に役立つ表計算ソフトの関数活用
 - ・表計算ソフトを活用した効果的なデータの可視化
 - ・効率よく分析するためのデータ集計
 - ・品質管理に役立つグラフ活用
 - ・表計算ソフトを活用した統計データ解析

使用機器等

パソコン、表計算ソフト

品質管理に役立つグラフ活用

人材育成上の課題・目標

- ・表計算ソフトを品質管理に役立てたい
- ・ABC分析で用いるパレート図の作成方法を知りたい
- ・2つのデータの関係性を調べる散布図の作成方法を知りたい
- ・ばらつきや異常を発見するヒストグラム
- の作成方法を知りたい
- ・2種類データのばらつきを調べる管理図の作成方法を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・表計算ソフトの各種グラフ化手法を理解することで、目的の品質管理に合った効率的なグラフ作成・分析ができる
- ・パレート図の作成方法を習得する
- ・散布図の作成方法を習得する
- ・ヒストグラムの作成方法を習得する
- ・管理図の作成方法を習得する

コースのねらい

品質管理で使用される管理手法を基に表計算ソフトによるグラフ機能を活用し、効率的に管理する手法を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ パレート図（ABC分析）の活用	・パレート分析（ABC分析）とは ・複合グラフの活用 ・表計算ソフトによるパレート図 ・パレート図と散布図
	■ ヒストグラム（度数分布表）の活用	・ヒストグラムとは ・表計算ソフトによるヒストグラム ・ヒストグラムの分析法
	■ 管理図の活用	・管理図とは ・管理図の種類 ・表計算ソフトによる管理図
	演習（例）	・表計算ソフトを用いたQC7つ道具の事例 ・パレート図の作成とABC分析 ・ヒストグラムの作成とばらつきの分析 ・管理図の作成と見方
	応用・実践要素（例）	・表計算ソフトを活用した統計解析手法 ・表計算ソフトを活用した回帰分析手法

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
2,200円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
3,300円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 4～30時間の間で設定可能です。
※ 推奨訓練時間は、6～12時間です。

推奨対象者

ITを活用した業務改善に取り組む方

関連コース

- A 品質保証・管理
- ・品質管理基本
 - ・品質管理実践
- D データ活用
- ・表計算ソフトの業務活用
 - ・業務に役立つ表計算ソフトの関数活用
 - ・ピボットテーブルを活用したデータ分析
 - ・品質管理に役立つグラフ活用
 - ・表計算ソフトを活用した効果的なデータの可視化
 - ・表計算ソフトを活用した統計データ解析
- ほか

使用機器等

パソコン、表計算ソフト

表計算ソフトを活用した統計データ解析

人材育成上の課題・目標

- ・表計算ソフトを用いてどのような統計解析ができるか知りたい
- ・統計データの分類と分析手順を知りたい
- ・実験や測定で得られたデータを用いた解析がしたい
- ・実験や測定で得られた全データ（母集団）から抽出した標本をもとに統計量を計算したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・統計解析の概要及び目的を理解する
- ・表計算ソフトの分析ツールの使用方法を理解する
- ・実験や測定で得られたデータの分類とその分析方法を習得する
- ・母集団について標本を用いて統計量を求めることができる

コースのねらい

業務の効率化を目指して、統計解析の概要を理解し、表計算ソフトを活用したデータの分析手法を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 統計解析概要	・統計解析概要 ・統計データの分類 ・統計データの分析手順
	■ データ分析	・一次元データ分析（度数分布とヒストグラム、基本統計量等） ・二次元データ分析（散布図、相関係数、分割表と相関表等）
	■ 母集団と標本	・正規母集団と標本分布 ・2標本問題
	演習（例）	・表計算の分析ツールを活用した統計解析 ・分析ツールを活用した一次元データ分析 ・分析ツールを活用した二次元データ分析 ・無作為抽出と標本の統計量
応用・実践要素（例）		・推測統計（推定及び検定、回帰分析） ・表計算ソフトを活用した分散分析 ・表計算ソフトを活用した分析結果の可視化

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
2,200円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
3,300円（税込）

- ※ 金額は、1名あたりの受講料です。
- ※ 4～30時間の間で設定可能です。
- ※ 推奨訓練時間は、6～12時間です。

推奨対象者

ITを活用した業務改善に取り組む方

関連コース

- A 品質保証・管理
 - ・品質管理基本
 - ・品質管理実践
- C 営業・販売
 - ・統計データ解析とコンセプトメイキング
 - ・顧客分析手法
 - ・顧客満足度向上のためのCS調査とデータ分析
- C マーケティング
 - ・マーケット情報とマーケティング計画（調査編）
 - ・マーケット情報とマーケティング計画（販売編）
- D データ活用
 - ・業務に役立つ表計算ソフトの関数活用
 - ・表計算ソフトを活用した効果的なデータの可視化
 - ・効率よく分析するためのデータ集計
 - ・ピボットテーブルを活用したデータ分析
 - ・品質管理に役立つグラフ活用 ほか

使用機器等

パソコン、表計算ソフト

表計算ソフトのマクロによる定型業務の自動化

人材育成上の課題・目標

- ・マクロの基本を理解したい
- ・VBAを理解したい
- ・定型業務を効率化したい
- ・定型業務の単純ミスを無くしたい

課題解決・目標達成を目指して

- ・マクロの基本を理解する
- ・VBAを理解する
- ・マクロを使って定型業務を自動化する

コースのねらい

表計算ソフトを活用する際、業務効率を向上させるために必要となる定型業務の自動化を実現するためのマクロの作成手法を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ マクロの基本知識	・マクロ記録 ・VBAとは ・プログラム開発環境 ・プログラミング作業の流れ
	■ 基本文法	・プロシージャ、モジュール ・プロパティ、メソッド ・オブジェクト
	■ 制御文法	・条件分岐処理 ・繰り返し処理
	演習（例）	・基本文法の練習問題によるプログラム作成 ・制御文法の練習問題によるプログラム作成 ・業務プログラムの作成
応用・実践要素（例）		・グラフ作成プログラムの構築 ・請求書作成プログラムの構築 ・Webサイト情報取得プログラムの構築

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 2日間（12時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 3日間（18時間）コース
4,400円（税込）

- ※ 金額は、1名あたりの受講料です。
- ※ 4～30時間の間で設定可能です。
- ※ 推奨訓練時間は、12～18時間です。

推奨対象者

ITを活用した業務改善に取り組む方

関連コース

- A バックオフィス
- ・ITツールを活用した業務改善
 - ・RPAを活用した業務効率化・コスト削減
 - ・RPA活用
- B 組織マネジメント
- ・業務効率向上のための時間管理
 - ・成果を上げる業務改善
- D データ活用
- ・表計算ソフトを活用した業務改善
 - ・業務に役立つ表計算ソフトの関数活用
- ほか

使用機器等

パソコン、表計算ソフト

データベースを活用したデータ処理（基本編）

人材育成上の課題・目標

- ・データベースの仕組みを理解したい
- ・仕事でたまったデータを一元管理したい
- ・大量のデータを管理したい
- ・効率良くデータを管理したい
- ・一つのデータを色々な角度から集計したい
- ・データを解析、分析したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・表計算と異なるデータベースの仕組みを理解する
- ・一つのファイルに仕事で使用する複数種類のデータを一元管理できる
- ・数百万行のデータを一つのファイルで管理できる
- ・色々な角度からのデータ処理方法を知得する
- ・統計解析を用いたデータ分析ができる

コースのねらい

業務の効率化を目指し、表計算ソフトでは対応できない大量のデータを処理するために必要となるデータベース技術を理解し、基本的なデータベースの構築方法を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ データベースの概要	・データベースの概念 ・データベースの構造と機能 ・データベースの構築手順
	■ データベースの設計	・テーブルの設計技法 ・データの分類
	■ 抽出処理（クエリ）	・選択クエリ ・抽出条件設定 ・レコードの並べ替え
	演習（例）	・表計算とデータベースの違いを確認 ・業務に必要なデータの洗い出しとテーブル設計 ・データ抽出・集計処理（必要項目の選択、条件による抽出・並べ替え・集計の処理）
応用・実践要素（例）		・フォーム及び帳票の作成と編集 ・テーブルの関連付け（リレーションシップ） ・データのインポートとエクスポート ・正しいテーブル設計手法（データの正規化等）

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
2,200円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
3,300円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 4～30時間の間で設定可能です。
※ 推奨訓練時間は、6～12時間です。

推奨対象者

ITを活用した業務改善に取り組む方

関連コース

- A 生産管理
 - ・在庫管理システムの導入
- A バックオフィス
 - ・IoT活用によるビジネス展開
- B 組織マネジメント
 - ・IoTを活用したビジネスモデル
- C 営業・販売
 - ・顧客満足度向上のためのCS調査とデータ分析
 - ・顧客分析手法
- D データ活用
 - ・データベースを活用したデータ処理（応用編）
 - ・データベースを活用した高度なデータ処理 ほか

使用機器等

パソコン、データベースソフト

データベースを活用したデータ処理（応用編）

人材育成上の課題・目標

- ・関連するテーブルをつなぎ合わせた処理を行いたい
- ・データ更新（追加・更新・削除）用のクエリを作成したい
- ・データの入出力画面を作成したい
- ・業務フローに合わせた入出力画面を作成したい
- ・データを解析、分析したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・複数のテーブルをつなぎ合わせ必要なデータを集計することができる
- ・テーブル間の関連付けにより、関連項目の連鎖更新や誤った更新を未然に防ぐ方法を理解する
- ・業務フローに合わせた入出力画面が作成できる
- ・フォームの活用により、誰でもデータの追加・更新処理ができ、効率化・省力化につなげることができる
- ・統計解析を用いたデータ分析ができる

コースのねらい

業務の効率化を目指し、データベースソフトの機能であるデータ間の関係性を利用した処理や目的にあったデータの抽出・更新処理、ユーザの入出力画面の作成方法を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ リレーションシップと参照整合性	・リレーションシップ ・参照整合性 ・リレーション／参照整合性の設定 ・参照整合性の確認
	■ クエリの活用	・更新クエリ ・テーブル作成クエリ ・削除/追加クエリ
	■ フォームの活用	・オブジェクトの種類 ・検索と処理結果の表示
	演習（例）	・リレーションシップ作成によるテーブルの結合処理 ・参照整合性の確認及びクエリの作成 ・各種フォームの作成とデータ処理
応用・実践要素（例）		・レポートの活用 ・業務処理の自動化 ・集合論とデータベース

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
2,200円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
3,300円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 4～30時間の間で設定可能です。
※ 推奨訓練時間は、6～12時間です。

推奨対象者

ITを活用した業務改善に取り組む方

関連コース

- A 生産管理
 - ・在庫管理システムの導入
- A バックオフィス
 - ・IoT活用によるビジネス展開
- B 組織マネジメント
 - ・IoTを活用したビジネスモデル
- C 営業・販売
 - ・顧客満足度向上のためのCS調査とデータ分析
- 顧客分析手法
- D データ活用
 - ・データベースを活用したデータ処理（基本編）
 - ・データベースを活用した高度なデータ処理 ほか

使用機器等

パソコン、データベースソフト

データベースを活用した高度なデータ処理

人材育成上の課題・目標

- ・各種関数を使いこなしたい
- ・クエリ画面で各種クエリを使いこなしたい
- ・データベース操作のSQL文を理解したい
- ・データを解析、分析したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・業務処理を効率化・省力化するために必要となる高度なデータベースの操作ができる
- ・用意されている関数を使用できる
- ・画面操作で各種クエリを作成できる
- ・各種クエリ（SQL文）を理解する
- ・統計解析を用いたデータ分析ができる

コースのねらい

業務の効率化を目指し、データベースソフトの関数機能を用いたデータの活用や、サブクエリやSQLを活用した高度な集計処理や更新処理を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 関数の活用	・演算式の設定 ・関数の種類 ・関数を活用したデータ抽出
	■ SQLによるデータの抽出及びテーブルの結合	・SQLによるクエリデザイン ・SELECT文 ・抽出条件の指定方法 ・テーブルの結合による集計
	■ SQLによる高度な集計とデータの更新	・グループ化と集計関数 ・重複データの抽出 ・不一致データの抽出 ・レコードの追加、更新、削除
	演習（例）	・関数を活用したデータ抽出処理 ・各種データ抽出のSELECT文の作成 ・データ更新処理のSQL文の作成
応用・実践要素（例）		・クロス集計クエリとテーブル作成クエリ ・業務処理の自動化 ・集合論とデータベース（外部結合処理）

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 2日間（12時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 3日間（18時間）コース
4,400円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 4～30時間の間で設定可能です。
※ 推奨訓練時間は、12～18時間です。

推奨対象者

ITを活用した業務改善に取り組む方

関連コース

- A 生産管理
 - ・在庫管理システムの導入
 - A バックオフィス
 - ・IoT活用によるビジネス展開
 - B 組織マネジメント
 - ・IoTを活用したビジネスモデル
 - C 営業・販売
 - ・顧客満足度向上のためのCS調査とデータ分析
 - D データ活用
 - ・データベースを活用したデータ処理（基本編）
 - ・データベースを活用したデータ処理（応用編）
- ほか

使用機器等

パソコン、データベースソフト

SNSを活用した情報発信

人材育成上の課題・目標

- ・ SNSの仕組みを知りたい
- ・ 広報ツールとしてSNSで情報発信をしたい
- ・ SNSの危険性・ネット炎上のリスク対策をしたい
- ・ ネット炎上の対応策と再発防止対策を知りたい
- ・ 従業員の誤ったSNS利用を防ぐ対策を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・ SNSの利用方法を理解する
- ・ 効果的な情報発信ができる
- ・ 炎上の原因特定と対策ができる
- ・ SNSの危険性を理解し、適切な情報発信ができる
- ・ SNS利用における社内ルールの作成・運用ができる

コースのねらい

広報に用いるSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)の利用方法と、ネット炎上が企業及び従業員に与える損害や被害に関する事例を通してSNSに潜む危険性を理解し、SNSの正しい活用方法と情報発信方法を習得する。

カリキュラム(例)

基本要素	基本項目	主な内容(例)
	■ SNSの活用	・ SNSの特徴と仕組み ・ SNSの活用事例の紹介 ・ アカウントの登録
	■ 情報発信	・ 写真・動画の投稿 ・ ハッシュタグの利用 ・ 投稿のアーカイブ
	■ SNSの危険性	・ ネット炎上と企業が受けるダメージ ・ SNSによる情報漏えい、風評被害 ・ SNS利用の制限 ・ SNS利用者の自覚と責任
	演習(例)	・ SNSの導入演習 ・ ネット炎上事例を通じた対策の検討 ・ ソーシャルメディアポリシーの作成 ・ 社内ルールの作成
	応用・実践要素(例)	・ 企業における成功するSNS活用事例 ・ インフルエンサーマーケティングについて

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料(例)

- (1) 1日(6時間)コース
2,200円(税込)
- (2) 2日間(12時間)コース
3,300円(税込)

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 4～30時間の間で設定可能です。
※ 推奨訓練時間は、6～12時間です。

推奨対象者

ITを活用した情報発信に取り組む方

関連コース

- B 組織マネジメント
 - ・ eビジネスにおけるリーガルリスク
 - ・ ネット炎上時のトラブル対応
 - ・ 知的財産権トラブルへの対応(1)
 - ・ リスクマネジメントによる損失防止対策
- C マーケティング
 - ・ インターネットマーケティングの活用
 - ・ プロモーションとチャネル戦略
 - ・ チャンスをつかむインターネットビジネス
- D 倫理・セキュリティ
 - ・ 脅威情報とセキュリティ対策
 - ・ 情報漏えいの原因と対応・対策 ほか

使用機器等

パソコンまたはスマートデバイス、ブラウザ、SNSサービス

オンラインプレゼンテーション技術

人材育成上の課題・目標

- ・オンライン会議等で効果的なプレゼンテーション技法を知りたい
- ・資料を作成する際にどのような点に気を付ければよいのか知りたい
- ・オンラインでのプレゼンテーションを行う際の常識を知りたい
- ・オンラインでのプレゼンテーション等で使える新しいツールを知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・オンラインでのプレゼンテーションの概要を理解する
- ・オンラインでのプレゼンテーションに適した資料を作成できる
- ・オンラインに適したプレゼンテーション技法を習得する
- ・オンラインでのプレゼンテーションに適した環境を理解する

コースのねらい

対面形式とオンライン形式のプレゼンテーションの違いを理解し、オンライン形式に適したプレゼンテーション技術を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ オンラインによるプレゼンテーション技術概論	・オンライン形式に関するよくある誤解 ・オンライン形式に起因するメリットとデメリット
	■ オンライン形式に適した資料作成	・資料作成用ツール ・資料作成時の注意点
	■ オンライン形式に適した発表プレゼンテーション技法	・オンライン形式によるプレゼンテーションの基本と注意点 ・顧客目線に立った伝え方
	■ オンラインに適した環境	・必要な機材、通信環境と推奨する実施環境
	演習（例）	・プレゼンテーション資料作成 ・オンラインプレゼンテーション実践
応用・実践要素（例）		・各種フレームワークの活用 ・動画コンテンツの積極的活用

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
2,200円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
3,300円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 4～30時間の間で設定可能です。
※ 推奨訓練時間は、6～12時間です。

推奨対象者

ITを活用した情報発信に取り組む方

関連コース

- A バックオフィス
 - ・テレワークを活用した業務効率化
- C 営業・販売
 - ・オンライン営業技術
 - ・提案型営業手法
 - ・提案型営業実践
- C マーケティング
 - ・インターネットマーケティングの活用
- D 情報発信
 - ・相手に伝わるプレゼン資料作成

使用機器等

パソコン、Web会議用ソフト

脅威情報とセキュリティ対策

人材育成上の課題・目標

- ・脅威となる対象・種類を知りたい
- ・セキュリティ対策の進め方を知りたい
- ・情報セキュリティの管理体制を確立したい
- ・不正アクセス、ウイルス感染やサイバー攻撃の脅威から情報資産を守りたい
- ・社内ネットワークにセキュリティ対策を施したい

課題解決・目標達成を目指して

- ・セキュリティリスクの対象と確認方法を理解する
- ・インシデントの種類を理解する
- ・セキュリティポリシーの策定方法を習得する
- ・社内ネットワークのセキュリティ対策を構築できる

コースのねらい

社内の情報セキュリティを維持するために、セキュリティポリシーの必要性を理解し、セキュリティ対策に必要な知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 脅威情報	・ウイルス・マルウェア ・標的型攻撃 ・フィッシングサイト ・情報漏えいによる損害 ・インシデント事例と対応
	■ セキュリティポリシー	・セキュリティポリシーの必要性 ・セキュリティ対策の考え方 ・管理体制 ・セキュリティ対策規定集の作成
	■ セキュリティ対策手法	・ウィルス対策及びセキュリティパッチの適用 ・パケットフィルタリング ・アプリケーションレベル・ゲートウェイ ・不正侵入検知
	演習（例）	・IT業務のインシデントの洗い出し（情報資産、脅威、脆弱性などの洗い出し） ・セキュリティ対策規定集の作成演習
応用・実践要素（例）		・インシデント発生事例に基づくケーススタディ ・利用者サイドのセキュリティ対策 ・プライバシーマーク制度

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
2,200円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
3,300円（税込）

- ※ 金額は、1名あたりの受講料です。
 ※ 4～30時間の間で設定可能です。
 ※ 推奨訓練時間は、6～12時間です。

推奨対象者

ITにおけるセキュリティ対策に取り組む方

関連コース

- A バックオフィス
 ・IoT導入に係る情報セキュリティ ・テレワーク活用
 ・テレワークを活用した業務効率化
 B 組織マネジメント
 ・個人情報保護と情報管理
 ・リスクマネジメントによる損失防止対策
 ・eビジネスにおけるリーガルリスク
 ・ネット炎上時のトラブル対応
 ・知的財産権トラブルへの対応（1）
 D ネットワーク
 ・ワイヤレス環境に必要な無線LANとセキュリティ
 ・社内ネットワークに役立つ管理手法
 D 情報発信
 ・SNSを活用した情報発信
 D 倫理・セキュリティ
 ・情報漏えいの原因と対応・対策 ほか

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
 なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

情報漏えいの原因と対応・対策

人材育成上の課題・目標

- ・情報漏えいに至るプロセスを知りたい
- ・情報漏えいとなる原因を知りたい
- ・情報漏えいが発生した場合の対応方法を知りたい
- ・個人ができる情報漏えい対策を知りたい
- ・組織としてできる情報漏えい対策を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・日常的な業務点検が実施できる
- ・情報管理の方法を理解する
- ・情報管理体制のメンテナンスができる
- ・情報漏えいが発生する前提の対策の検討ができる

コースのねらい

情報漏えいが発生する原因と発生した場合の対応、防止するために必要となる対策を理解し、情報漏えい発生ゼロを実現する組織体制確立のためのポイントを習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 情報漏えいの原因と損害	・情報漏えいのプロセス ・情報漏えいの原因（事故、紛失、故意、技術的） ・情報漏えいによる損害
	■ 情報漏えい発生時の対応	・情報漏えい発生時の対応ステップ ・情報漏えいのタイプ別対応 ・対応手順
	■ 情報漏えいの対策	・従業員個人の対策 ・組織としての対策 ・技術的対策
	演習（例）	・セキュリティ理解度チェック ・情報漏えいが発生した場合の対応手順の検討（ある事例発生時の対応方法を検討） ・情報漏えい対策シートを用いた自社の状況確認
応用・実践要素（例）		・情報漏えい発生事例に基づくケーススタディ ・個人情報保護の理解 ・プライバシーマーク制度

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
2,200円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
3,300円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 4～30時間の間で設定可能です。
※ 推奨訓練時間は、4～6時間です。

推奨対象者

I Tにおけるセキュリティ対策に取り組む方

関連コース

- A バックオフィス
 ・IoT導入に係る情報セキュリティ
 ・テレワーク活用 ・テレワークを活用した業務効率化
- B 組織マネジメント
 ・個人情報保護と情報管理
 ・リスクマネジメントによる損失防止対策
 ・知的財産権トラブルへの対応（2）
- D ネットワーク
 ・ワイヤレス環境に必要な無線LANとセキュリティ
- D 情報発信
 ・SNSを活用した情報発信
 ・脅威情報とセキュリティ対策 ほか

使用機器等

パソコン、メールソフト、データ暗号化ソフト

テレワークに対応したセキュリティ対策

人材育成上の課題・目標

- ・テレワークにおいてどのようなセキュリティリスクがあるかを知りたい
- ・テレワーク時の情報漏えい対策を知りたい
- ・テレワークにおける秘密事項の取扱い方法を知りたい
- ・インシデント発生時の初期対応を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・テレワーク特有のセキュリティリスクを理解する
- ・テレワークに対応した社内ネットワークのセキュリティ対策を理解する
- ・インシデント発生時の対応を理解する

コースのねらい

テレワーク特有の情報漏えいが発生する原因と発生した場合の対応、防止するために必要となる対策を理解し、テレワークにおいても情報漏えい発生ゼロを目指す組織体制確立のためのポイントを習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ テレワーク下のセキュリティ概論	・就業場所の違いを認識する ・テレワークの方法による違いを認識する（シンクライアント方式等）
	■ 社外秘事項の取扱い	・規程整備（アクセス権者の制限、暗号化等）
	■ 情報漏えいのリスクと対策	・情報漏えい事例とその対策 ・技術的リスクと人為的リスク ・各種リスクへの対策
	■ インシデント発生時の初期対応	・平常時の備えと有事における対応
	演習（例）	・情報セキュリティ理解度チェック ・インシデント発生時の対応実践 ・自社にあったリスク管理表作成
	応用・実践要素（例）	・巧妙化するハッキングの手口 ・VPN導入事例 ・利用者認証の導入（多要素認証方式・電子証明書）

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
2,200円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
3,300円（税込）

- ※ 金額は、1名あたりの受講料です。
 ※ 4～30時間の間で設定可能です。
 ※ 推奨訓練時間は、6～12時間です。

推奨対象者

ITにおけるセキュリティ対策に取り組む方

関連コース

- A バックオフィス
 ・テレワークを活用した業務効率化
 ・テレワーク活用
 B 組織マネジメント
 ・リスクマネジメントによる損失防止対策
 ・eビジネスにおけるリーガルリスク
 D 倫理・セキュリティ
 ・脅威情報とセキュリティ対策
 ・情報漏えいの原因と対応・対策

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
 なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。